

土浦市

八幡下遺跡

発掘調査報告書

1991.12

土浦市教育委員会

土浦市遺跡調査会

序

土浦市は霞ヶ浦や桜川の水に恵まれ、太古から人々が生活するのに適したところでありました。そのため市内には貝塚、古墳、集落跡など数多くの遺跡が存在しております。これらの遺跡は当時の様子を知る手掛りとなることはもちろんのこと、現代の私たちが豊に生活することのできる先人の業績でもあります。

このような貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えることは私たちの大切な任務であり、郷土の発展のために必要不可欠なことと思います。

このたび、市内常名地区において(株)サンライズ・ヴィラ土浦の建設が計画されました。協議の結果、開発予定地内の遺跡を発掘調査して記録保存することになりました。今回の調査によって多くの文化財が発見されましたことは、当地域の古代を解明する重要な手掛りとなると思われます。

今後、この成果が研究や生涯学習の向上のために充分活用されますことを希望いたします。

最後になりましたが、調査から報告書の発刊に至り、(株)サンライズ・ヴィラ土浦をはじめ、関係者の皆様方の御協力と御指導に対し、深く御礼を申し上げます。

平成3年12月

土浦市教育委員会

教育長 青木利次

例 言

1. 本書は、平成元年7月18日から8月30日までの間実施された茨城県土浦市大字常名字八幡下に所在する八幡下遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、(株)サンライズ・ヴィラ土浦の建設に伴い、記録保存を目的として土浦市遺跡調査会が実施した。
3. 発掘調査は、黒澤春彦、中澤達也が担当し、終了後整理作業を行なった。
4. 本書の執筆、編集は黒澤が行ない、関口満が補佐した。
5. 遺物の実測は、黒澤、関口、須貝和子、富田シヅエ、浜田久美子、平野敬子、トレース、図版作成は黒澤、関口が行なった。
6. 当遺跡出土の遺物や記録類については土浦市教育委員会が保管している。
7. 調査及び整理にあたり下記の方々にご指導、御協力を頂いた。厚くお礼申しあげる次第である。(敬称略)

茨城県教育委員会、県南教育事務所、市文化財保護審議会、市文化財愛護の会、常名区長吉田利夫、島田太、大和田みどり

凡 例

1. 挿図図版の縮尺は、原則として、住居址、土坑1/60、土器1/3で示した。
2. 挿図図版中の数値は標高を表わす。
3. 推定線には点線を用いた。
4. 遺構覆土の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖』を利用した。
5. 遺物実測図中の※は床面出土、△はカマド出土、○は回転ヘラ切後手持ちヘラ削り、●は回転ヘラ切後回転ヘラ削り、▲は回転ヘラ切未調整、□は手持ちヘラ削り、■は回転ヘラ削りを表わす。
6. 遺物実測図中の一点鎖線は回転実測を表わす。
7. 遺物実測図中の断面のスクリントーンは、須恵器、灰釉陶器、内面のスクリントーンは黒色処理を表わす。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
挿図目次	
図版目次	
第一章 調査の経過	1
第二章 環境	1
第一節 地理的環境	1
第二節 歴史的環境	3
第三章 遺構と遺物	6
第一節 古墳時代	6
第二節 歴史時代	10
第三節 遺構外出土遺物	25
第四章 まとめ	29

挿 図 目 次

Fig 1 遺跡周辺地形図	2	Fig 13 1号住居址出土遺物	10
2 周辺の遺跡	4	14 2号住居址	11
3 遺構全体図	5	15 2号住居址カマド	12
4 4号住居址	6	16 2号住居址出土遺物(1)	12
5 4号住居址出土遺物	7	17 2号住居址出土遺物(2)	13
6 7号住居址	8	18 5号住居址・10号住居址	14
7 7号住居址出土遺物	8	19 5号住居址カマド	15
8 12号住居址	9	20 5号住居址出土遺物(1)	15
9 12号住居址出土遺物	9	21 5号住居址出土遺物(2)	16
10 13号住居址・3号土坑	9	22 10号住居址カマド	16
11 13号住居址・3号土坑出土遺物	10	23 10号住居址出土遺物(1)	17
12 1号住居址	10	24 10号住居址出土遺物(2)	18

25	6号住居址	19	33	14号住居址	23
26	6号住居址出土遺物	19	34	14号住居址出土遺物	23
27	8号住居址	20	35	1号土坑・2号土坑	24
28	8号住居址カマド	21	36	1号土坑・2号土坑出土遺物	24
29	8号住居址出土遺物(1)	21	37	遺構外出土遺物(1)	25
30	8号住居址出土遺物(2)	22	38	遺構外出土遺物(2)	26
31	9号住居址	22	39	遺構外出土遺物(3)	27
32	9号住居址出土遺物	22	40	遺構外出土遺物(4)	28

調 査 団 組 織

発掘調査

調査主任 黒澤 春彦 (H2.4.1より土浦市教育委員会社会教育課)

調査員 中澤 達也 ()

作業員 石戸とし子, 菊田 真代, 酒井あつ子, 酒井 千代, 坂 茂野, 桜井 秀子,
 島田 貞次, 島田 初男, 島田 輝子, 関野喜久代, 富島 栄子, 富田シヅエ,
 沼尻テル子, 服部 誠, 藤崎 雅世, 松浦 澄子, 箕輪 正道, 元川 隆,
 元川 優

整 理

調査主任 黒澤 春彦

調査員 関口 満

作業員 須貝 和子, 富田シヅエ, 浜田久美子, 平野 敬子

事務局 土浦市教育委員会社会教育課

調査協力員 小松 葉子, 遠藤 成江, 大野美津子, 川田 光子, 小松崎廣子, 椎名まさ子,
 松川さち子, 松川 綾野

第一章 調査の経緯

平成元年5月18日に(株)サンライズ・ヴィラ土浦より、土浦市開発行為指導要綱に基づく事前協議の申請が提出された。市教育委員会により、5月25日に現地を踏査したところ、申請地内に遺物の散布を確認した。そのため、試掘調査により、遺跡の有無を確認することになった。試掘調査は6月23日に実施され、土師器、須恵器等の遺物が出土したため、字名から八幡下遺跡と命名し、取り扱いについて協議に入った。協議の結果、記録保存のための発掘調査を行うことになった。

発掘調査は、7月17日から開始され、重機による表土除去を3日間行なった後、本格的な調査に入った。

調査方法は、任意に基準杭を設け、4m×4m方眼を設定した。その後、掘り下げながらプランを確認し、遺構を検出していった。8月25日に記者向け、27日に一般市民向けの現地説明会を行なった。8月29日に器材を撤収し、8月30日にすべての作業を終了した。

第二章 環 境

第一節

土浦市は茨城県の中央よりやや南に位置し、東は霞ヶ浦に面している。霞ヶ浦には北西から市街地を流れる桜川や、市の南部を流れる花室川が注ぎ、沖積低地を形成している。桜川河口付近の低地は、市街地となっている。

土浦の台地は常総台地が桜川によって二分され、北を新治台地、南を筑波稲敷台地と呼んでいる。台地の標高は、新治台地が25～27m、筑波稲敷台地が約24mである。地質は成田層と呼ばれる砂礫の基盤層、常総粘土層、関東ローム層、表土となっている。関東ローム層は2～3mの厚さに堆積している。

本遺跡は土浦市常名字八幡下、JR東日本土浦駅の北西約3kmに所在する。桜川左岸の新治台地の小河岸段丘上で確認された。標高14～16mの緩斜面上で、北側は急斜面となり台地へ続いている。低地との比高差は約13mである。

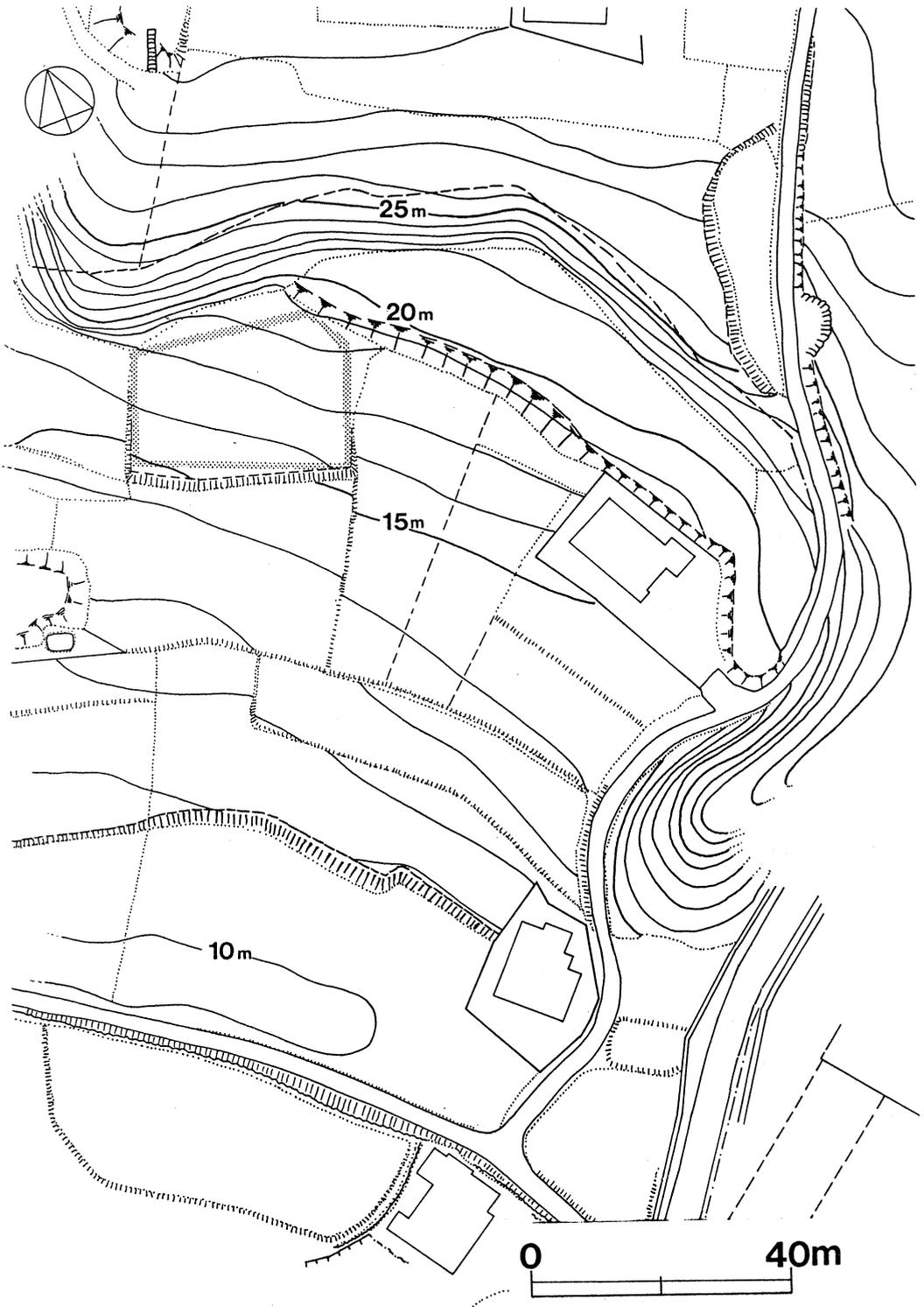


Fig 1 遺跡周辺地形図

第二節 歴史的環境

霞ヶ浦沿岸は、古くから人々が住むのに絶好の自然環境で、数多くの遺跡が存在している。現在土浦では、約387ヶ所におよぶ遺跡が分布調査等によって確認されているが、未確認の遺跡も多いと思われる。

土浦市において先土器時代の遺跡は少なく、石器が数点発見されているにすぎない。

縄文時代になると、国指定の上高津貝塚をはじめ、多くの遺跡が存在する。早期、前期の遺跡として、昭和61年に調査された霞ヶ浦用水建設事業地内のゴリン山遺跡、原ノ内遺跡や、坂の上遺跡（1）、羽黒後遺跡（23）がある。中期では、木田余台の御吳遺跡、東台遺跡、神立遺跡等で確認され、特に木田余台からは、良好な資料が検出された。後晩期の遺跡では、上高津貝塚が知られている。

弥生時代の遺跡は、市の北西部の西原遺跡、木田余台の宝積遺跡で確認され、西原遺跡からは中期の合口土器棺墓が発見されている。この他、西真鍋遺跡（15）や発掘調査が行なわれた永国遺跡、和台遺跡で確認されている。

古墳時代の遺跡は、集落、包蔵地、古墳等、多くの遺跡が確認されている。集落、包蔵地をみると、周辺では西谷津西遺跡（4）、西谷津遺跡（9）、弁才天遺跡（10）、八幡坂下遺跡（12）、八坂前遺跡（17）、板谷遺跡（19）、東山団地遺跡（21）がある。市内では、前記の霞ヶ浦用水建設事業地内の各遺跡や木田余台の各遺跡、昭和47年から49年調査の烏山遺跡、61年調査の向原遺跡がある。烏山遺跡からは玉作工房址が検出されている。古墳では、円墳が2基現存する山川古墳群（7）、全長78mの規模を有する天神山古墳（8）がある。山川古墳からは石棺が検出され、棺内より鉄製品、3体分の人骨が出土した。天神山古墳の西側20mの地点に、瓢箪塚古墳（24）が存在していたが、土取りにより消滅した。記録によると全長74mの前方後円墳であったらしい。

八幡下遺跡の北西約0.5mの地点に殿里古墳が存在する。殿里古墳の北西より箱式石棺が検出した。石棺は地表下約0.5mの位置で棺内より、直刀3点、人骨2～3体分が出土した。

奈良、平安時代になると、天神脇遺跡（11）、八幡台遺跡（13）、殿里遺跡（14）があり、各遺跡とも、古墳時代との複合遺跡である。

中近世では、水戸街道沿の一里塚や、民間信仰の塚があり、当遺跡周辺では、板谷の一里塚（20） どんどん塚（16）鉄砲塚が存在している。



(国土地理院発行 1/25,000 に加筆)

番号	名称	種別	縄弥古	奈中平近	番号	名称	種別	縄弥古	奈中平近
1	坂の上遺跡	包蔵地	●		14	殿里遺跡	包蔵地	(●)	●●
2	小坂の上遺跡	包蔵地	●	(●)	15	西真鍋遺跡	包蔵地	●●	
3	アラク遺跡	包蔵地	●		16	どんどん塚	塚		●
4	西谷津西遺跡	包蔵地	(●)	●	17	八坂前遺跡	包蔵地	●	●●
5	北西原遺跡	包蔵地	●	●	18	八幡下遺跡	集落跡		●●
6	神明遺跡	包蔵地	●	●	19	板谷遺跡	包蔵地		●
7	山川古墳群	古墳群			20	板谷一里塚	一里塚		●
8	天神山古墳	古墳		●	21	東山団地遺跡	包蔵地		●
9	西谷津遺跡	包蔵地		●	22	中畑遺跡	包蔵地	●	
10	弁才天遺跡	包蔵地		●	23	羽黒跡遺跡	包蔵地	●	
11	天神脇遺跡	包蔵地	●	●●	24	瓢箪塚古墳(煙滅)	古墳		●
12	八幡坂下遺跡	包蔵地		●	25	殿里古墳	古墳		
13	八幡台遺跡	包蔵地		●●	26	殿里	古墳		

Fig 2 周辺の遺跡

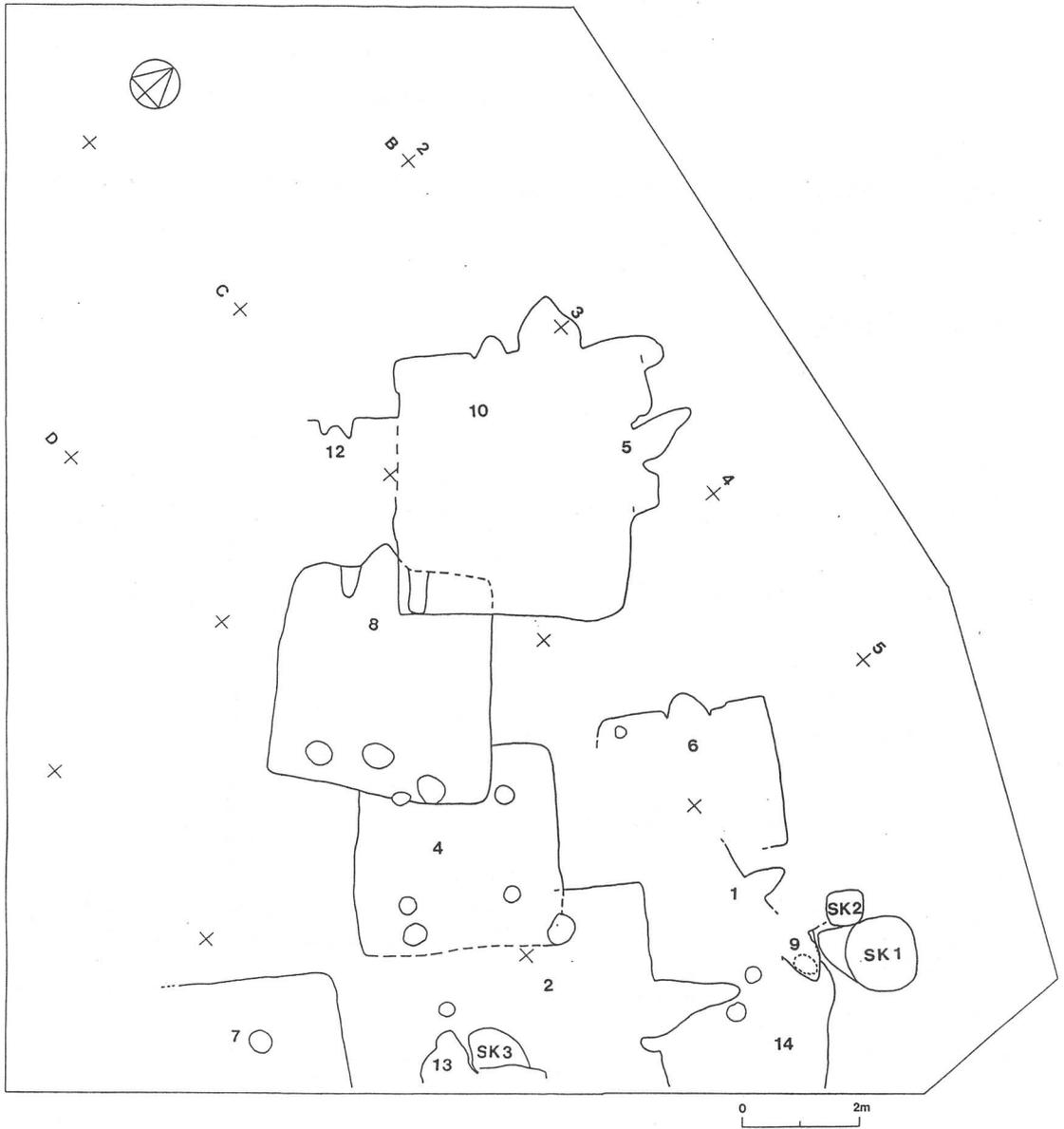


Fig 3 遺構全体図

第三章 遺構と遺物

八幡下遺跡は標高14~16mの小河岸段丘上の斜面に位置する。遺跡は大量の土砂が堆積し、周辺の斜面よりやや高い。表土は腐食土と砂質の土で30~50cmあり、その下層に白色の粒子を含む粘土質の褐色土が厚く堆積し、遺物を包含している。ロームは調査区の東端で見られ、南、西側は白色の粒子を多量に含む暗褐色土、北端は砂層である。遺構はこれらの土層を掘り込んで構築している。

確認された遺構は住居址12軒、土坑3基で、時期は古墳時代後期から平安時代が中心で、狭い範囲に構築されているため重複が激しい。

第一節 古墳時代

4号住居址

本住居址は、L-4区、D-4区で確認され、2号住、8号住と重複している。平面形は方形を呈し、規模は3.6×3.7m、床面までの最深部0.4mを測る。主軸方向はN-40-Wである。床面は平坦で、北コーナー側で床面は火を受けている箇所が見られる。壁はほぼ垂直に立ち上がり、南側は削平をうけわずかに残る程度である。柱穴は4箇所検出され、深さは0.15m~0.35mである。壁溝は一部切れているがほぼ全周する。覆土は白色粒子を多量に、焼土粒を少量

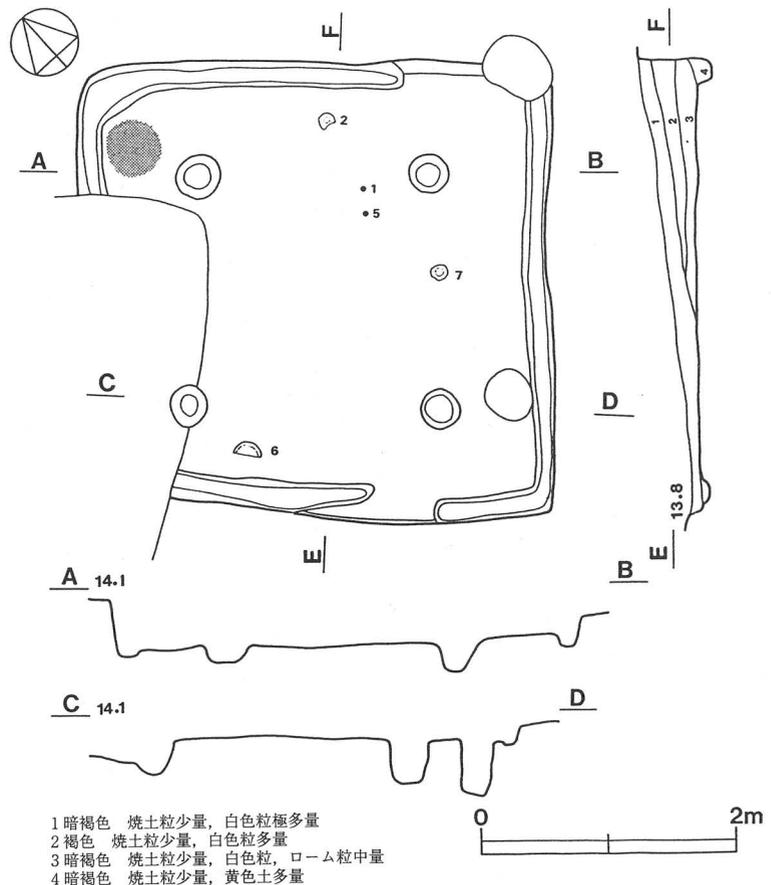


Fig 4 4号住居址

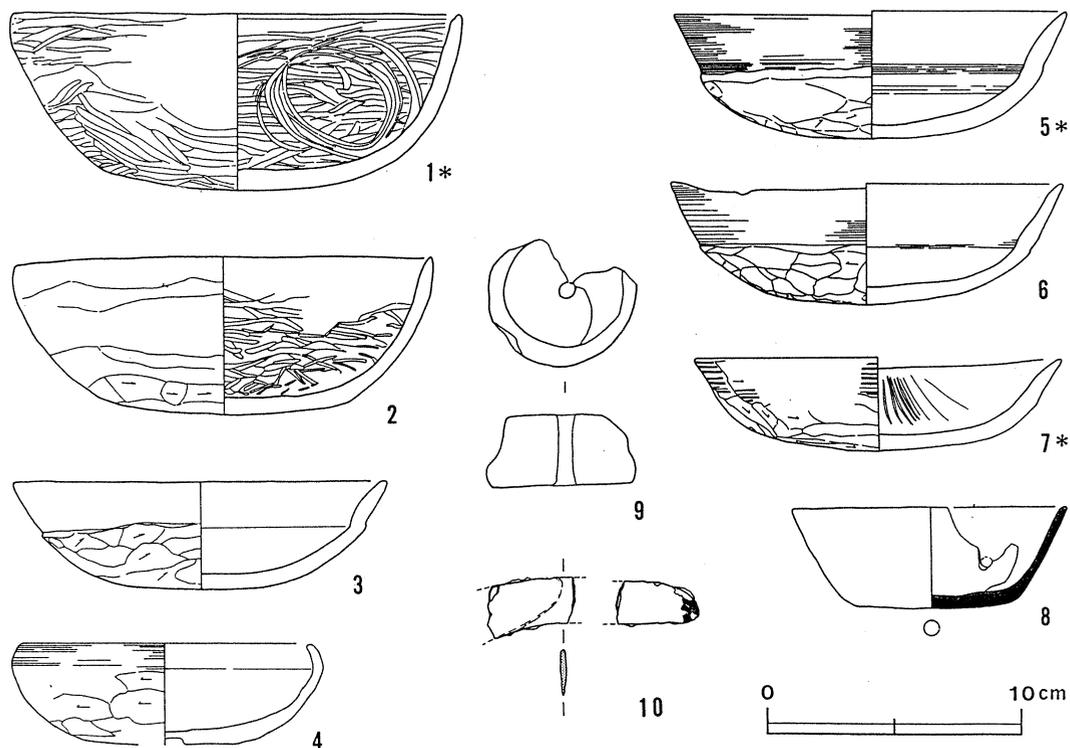


Fig 5 4号住居址出土遺物

含む褐色，暗褐色土層である。

竈は検出されなかったが北西壁に構築され，8号住に切られた可能性が考えられる。

遺物は多量の土師器の他，須恵器，紡錘車，鉄器などが出土した。1，2は大形の碗で，1は灰黄色を呈し，内面の口縁部に稜を持つ。内外ともミガキで，内面はうず巻状になっている。2は橙色を呈し，内面はミガキ，外面は横位のヘラ削りが施されている。8は覆土中からの出土で，体部に穿孔がみられる。

本住居址の時期は，古墳時代後期と思われる。

7号住居址

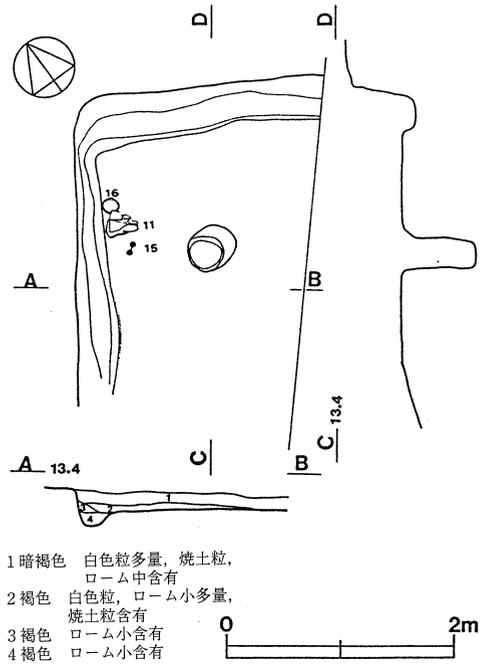
本住居址は，調査区の南D-4区，E-4区で確認され，東側は調査区外に延び，南側は削平されている。平面は方形を呈すると思われる，残存する規模は北東壁2.2m，北西壁2.6mで，床面の最深部は0.5mを測る。主軸方向はN-30°-Eである。壁はロームを掘り込み，ほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦で，壁溝が巡る。P i tは1ヶ所検出された。

覆土は，1~5mmのロームや白色粒を多量に含む暗褐色土，褐色土である。

竈は確認されなかったが，調査区外に存在すると思われる。

遺物は、北西壁近くの床面から土師器の甑、杯、円形の石製品等出土した。甑は北西壁際よりつぶれた状態で出土した。円形の石製品は大きさ4.5×4.0cmで整形を施した軽石である。

本住居址の時期は、古墳時代後期と思われる。



- 1 暗褐色 白色粒多量, 焼土粒, ローム中含有
- 2 褐色 白色粒, ローム小多量, 焼土粒含有
- 3 褐色 ローム小含有
- 4 褐色 ローム小含有

Fig 6 7号住居址

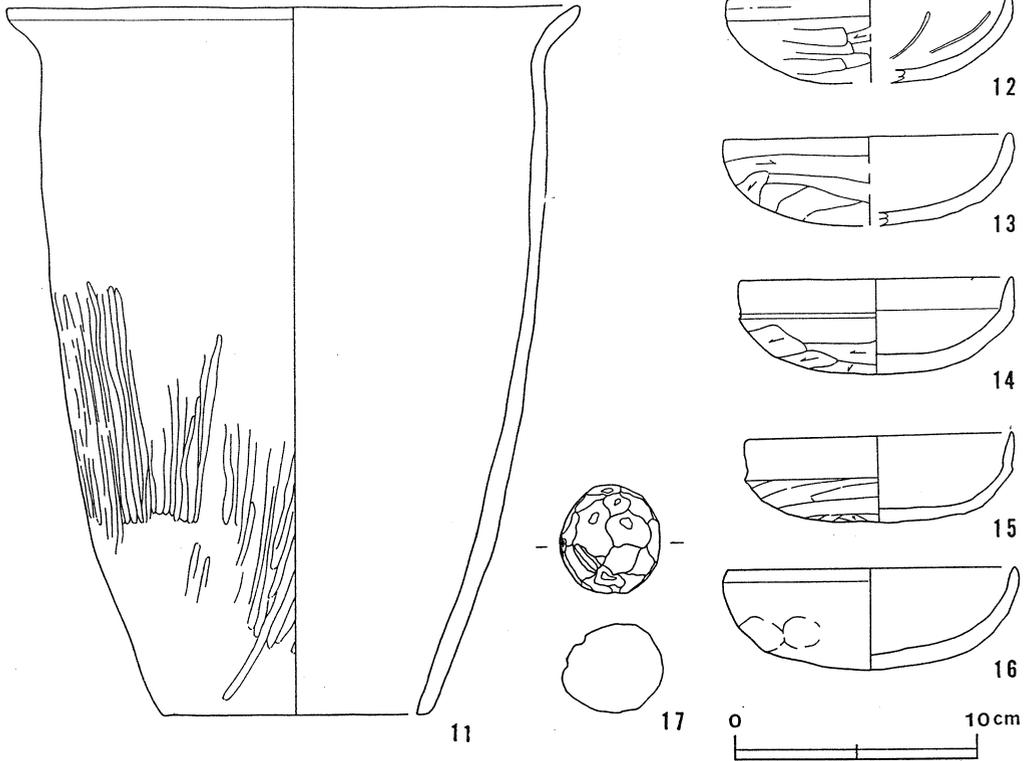


Fig 7 7号住居址出土遺物

12号住居址

本住居址は、B-2区を中心として確認され、北、東は8号住、10号住に切られている。また南側は削平されており、竈周辺のみの残存で、依存状況は悪い。そのため、住居址の規模は不明である。竈は北西壁に構築され、主軸方位はN-50°-Wである。規模は全長0.45m、最大幅0.7mである。竈付近より、土師器の杯が出土している。

本住居址の時期は、古墳時代後期と思われる。

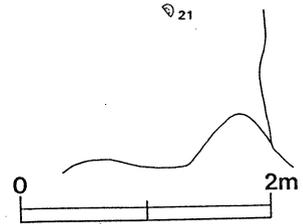
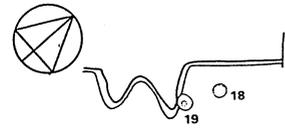


Fig 8 12号住居址

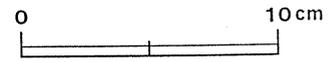
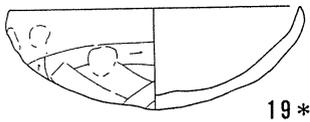
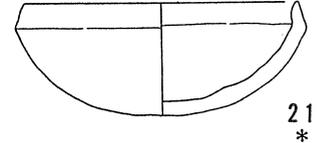
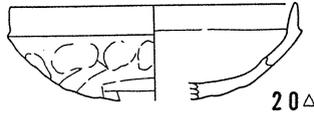
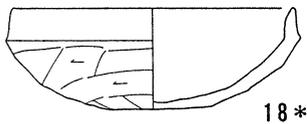


Fig 9 12号住居址出土遺物

13号住居址

本住居址は、調査区の東端、D-5区に所在する。2号住の床下より検出され、3号土坑と重複している。遺構の大部分は調査区外へ延び、竈周辺のみの検出である。規模は、2.2m×0.26m、最深部0.4mを測る。主軸方位はN-45°-Wである。

竈は西壁に構築され、一部を2号住のP i tで切られている。

遺物は、土師器が主で、甕の口縁が出土した。

本住居址の時期は、古墳時代後期と思われる。

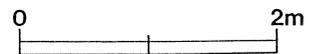
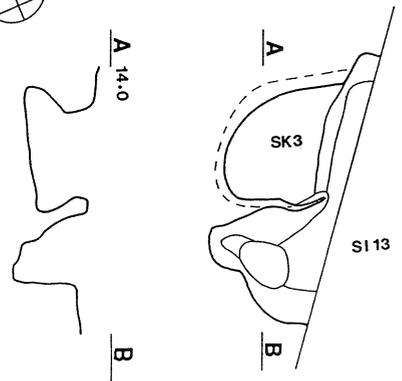


Fig 10 13号住居址・3号土坑

3号土坑

本土坑は、D-5区に所在し、2号住の床下より検出された。13号住とは重複関係にある。平

面形は円形で、壁はフラスコ状を呈する。規模は、上端0.8×0.7m、下端1.0×0.8m、最深部0.65mを測る。

遺物は、古墳時代後期の杯（土師器）が出土したが、13号住居からの流れ込みも考えられる。

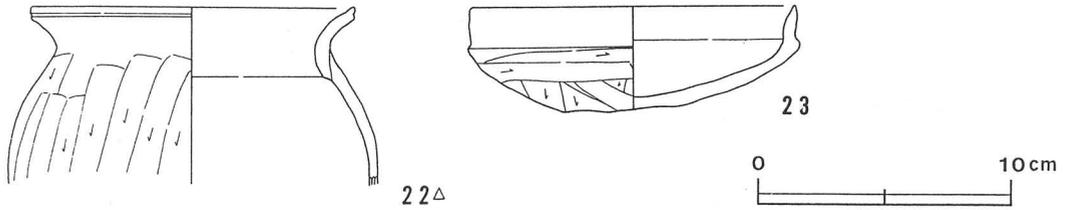


Fig 11 13号住居址・3号土坑出土遺物

第二節 歴史時代

1号住居址

本住居址は、B-5区、C-5区で確認され、2号、6号、9号、14号住居址と重複している。そのため依存状況は悪く、西壁、南壁は削平されて存在しない。平面形は方形を呈すると思われ、残存する規模は北壁2.7m、西壁2.9mである。床面の深さは最深部で0.4mを測る。主軸方向はN-35°-Eである。Pit、壁溝は確認されなかった。

覆土は、焼土粒、炭化粒、白色粒を多量に含む褐色、暗褐色土である。

竈は北側で検出された。規模は全長0.8m、焚口部幅0.8mである。覆土は多量の焼土粒、炭化粒、白色粒を含有する褐色、暗褐色土である。

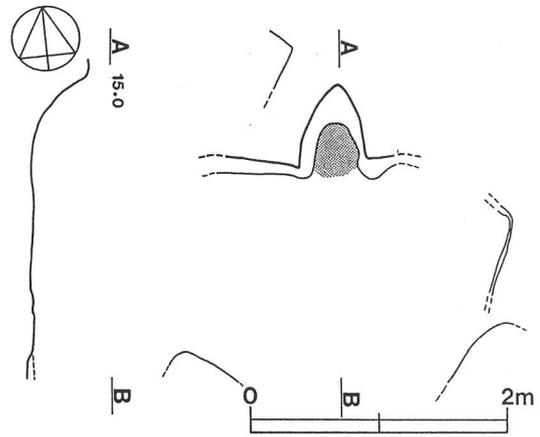


Fig 12 1号住居址

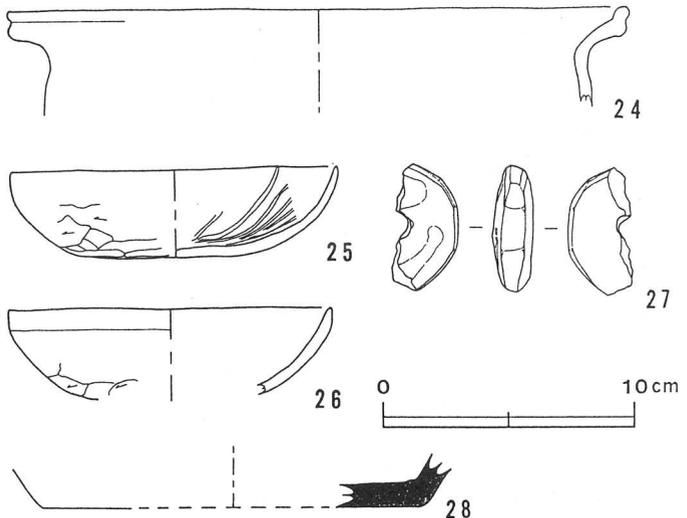


Fig 13 1号住居址出土遺物

2号住居址

本住居址は調査区東，C-5で確認され，1号，4号，13号，14号住と重複している。また南側は削平され，東は調査区外となっている。平面形は方形を呈すると思われる。残存する規模は北壁2.4m，西壁3.7mで，床の最深部は0.3mを測る。主軸方位はN-35-Eである。床面はほぼ平坦で東側の一部はロームである。壁は北壁の一部であるロームを掘り込んでいる。

P i t は4ヶ所確認された。深さは0.8m~0.5mである。壁溝は確認されなかった。

覆土は，焼土粒，白色粒，炭化粒を多量に含む褐色土層である。

竈は北東に位置し，規模は全長1.8m，焚口部幅0.8mと大型で，住居の外へ大きく延びている。袖部は白色砂質粘土で構築されている。煙道部はゆるやかな傾斜で，白色砂質粘土が用いられている。覆土は焼土粒，白色粒を含む褐色土である。

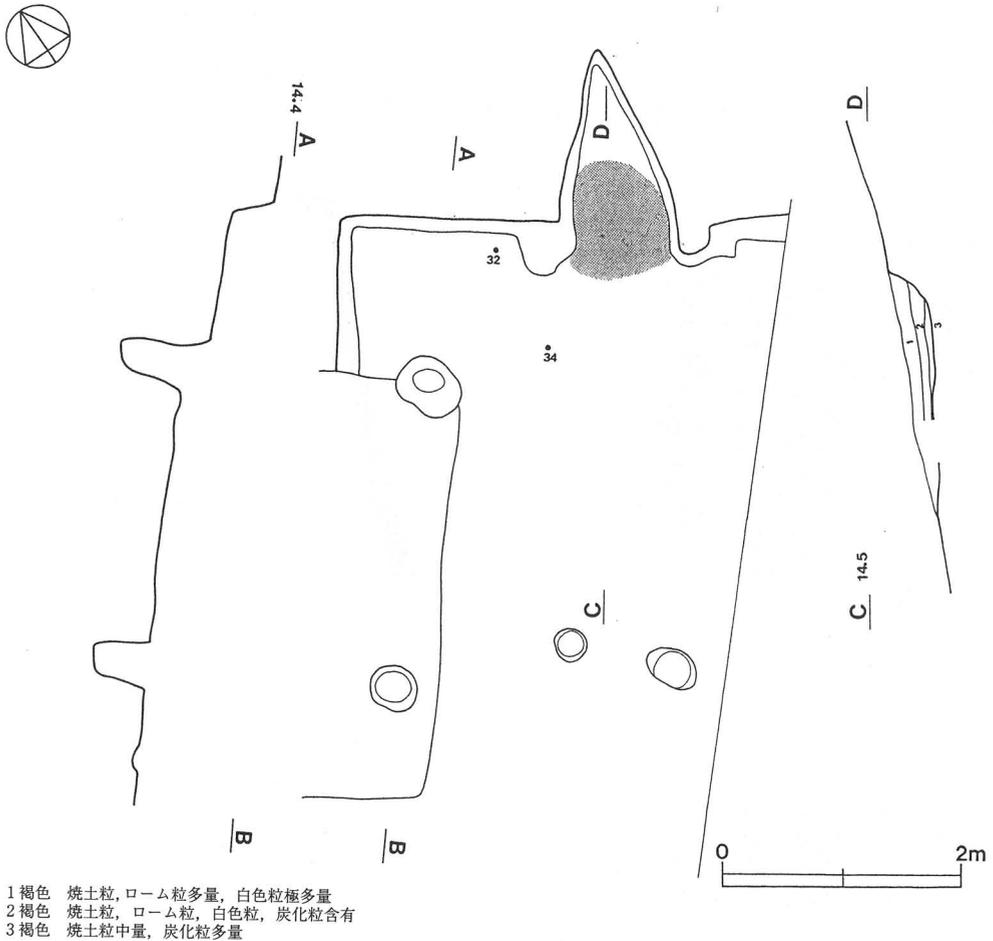


Fig 14 2号住居址

遺物は、須恵器、土師器が出土しているが、竈内からの出土が多く、須恵器の甑、土師器の皿等が出土している。また竈付近から、須恵器の鉢、提げ碇を再利用した石製品等が出土している。石製品は全面を面取りし、上下に3mm前後の穿孔をしている。

本住居址の時期は平安期で新旧は、4号住、13号住→14号住→2号住と思われる。

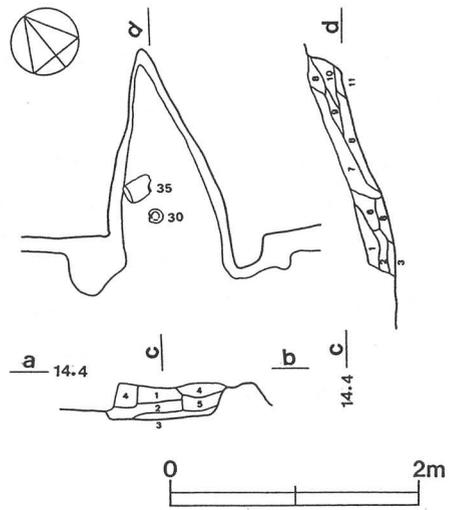


Fig 15 2号住居址カマド

- | | | |
|---------------------------------|------------------------|------------------------|
| 1 褐色 焼土粒, ローム粒, 炭化粒少量, 黄色砂質粘土多量 | 5 褐色 黄色砂質粘土極多量, 焼土粒含有 | 9 におい赤褐色 焼土粒含有 |
| 2 褐色 焼土粒中量, ローム粒, 炭化粒少量 | 6 暗褐色 焼土粒, 白色粒含有 | 10 におい赤褐色 白色砂多量, 焼土粒含有 |
| 3 褐色 焼土粒, 炭化粒多量 | 7 褐色 焼土小多量, 白色粒, 白色砂含有 | 11 暗赤褐色 焼土粒少, ローム粒~中含有 |
| 4 褐色 白色粒含有 | 8 赤褐色 焼土層 | |

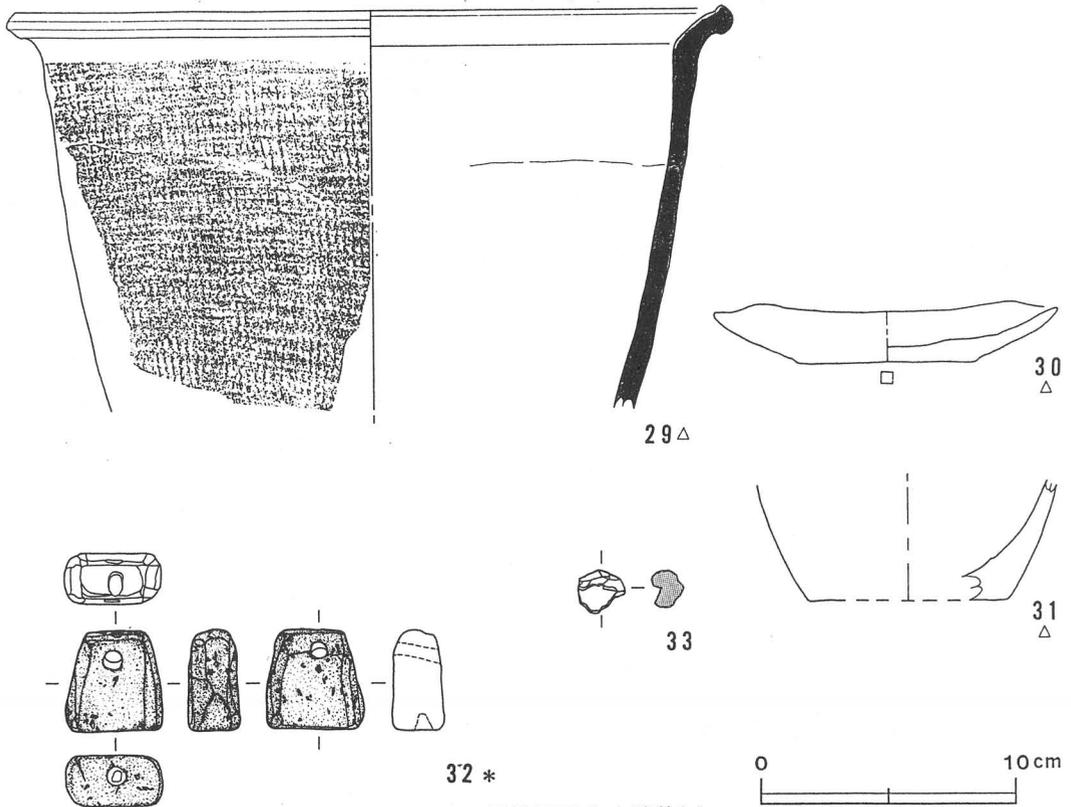


Fig 16 2号住居址出土遺物(1)

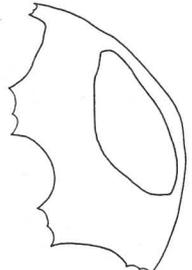
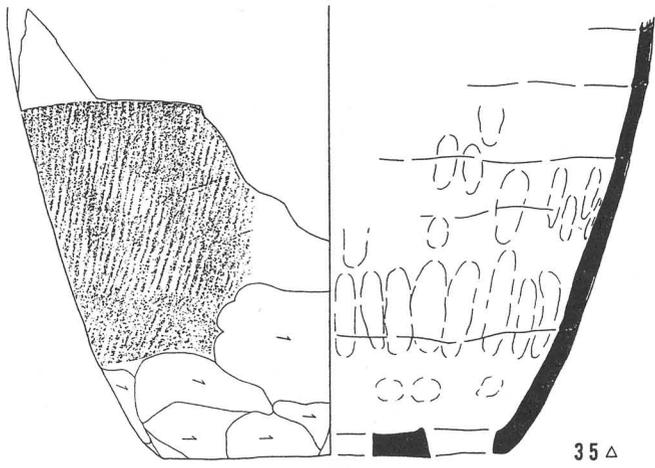
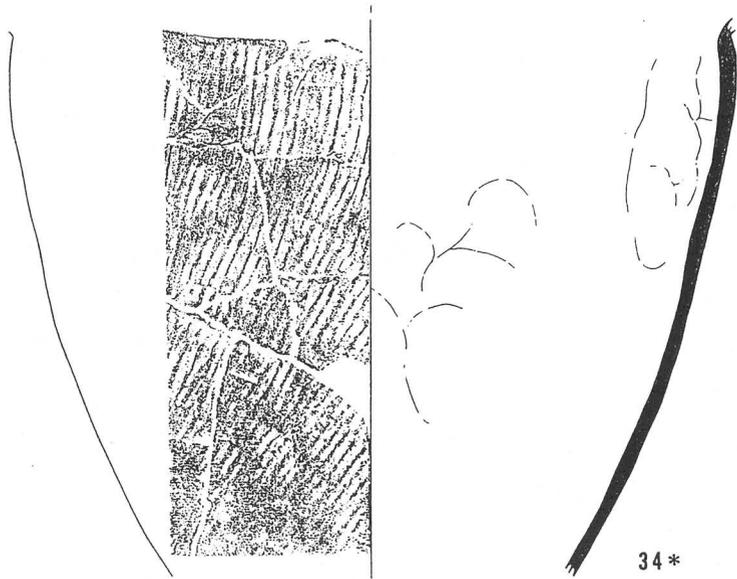


Fig 17 2号住居址出土遺物(2)

5号住居址

本住居址はA-3, B-3区で確認された。10号住に切られているため、竈周辺のみが存在である。平面形態、規模については不明であるが、残存する北壁の規模が1.9mであることから比較的小規模の住居址と思われる。最深部は0.7mを測る。主軸方位はN-30°-Eである。Pitや、壁溝は検出されなかった。

竈は北壁に構築され、規模は、全長1.3m、幅1.1m、焚口部幅0.5mを測る。主軸方向はN-10°-Eである。煙道部は二段に掘られ、急な立ち上りのあとゆるやかに外へ延びる。焚き口部には浅い掘り込みがあり、掘り込みの奥が火床面となっている。袖部は黄色の砂質粘土で構築されている。覆土は、焼土を多量に含む褐色土である。

遺物は土師器を中心に竈内からは甕、覆土中からは杯、高台付杯が出土した。竈内の甕は横転し、左右に押しつぶされた状態で出土した。

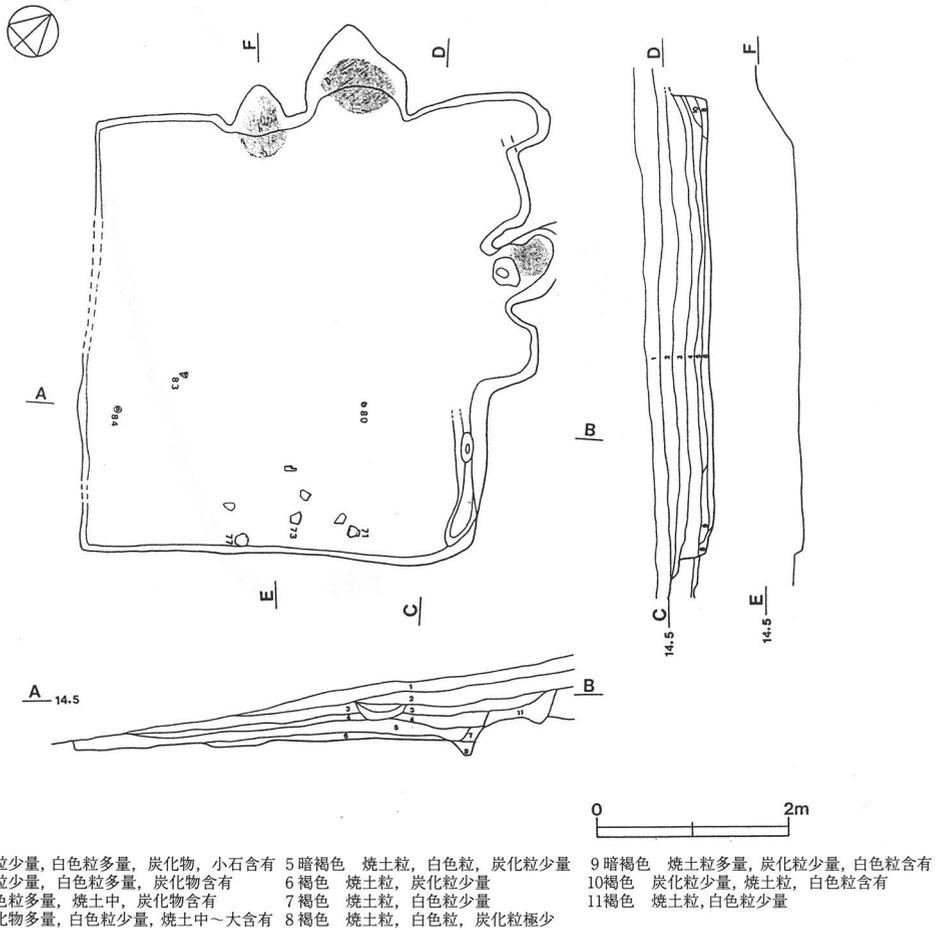


Fig 18 5号住居址・10号住居址

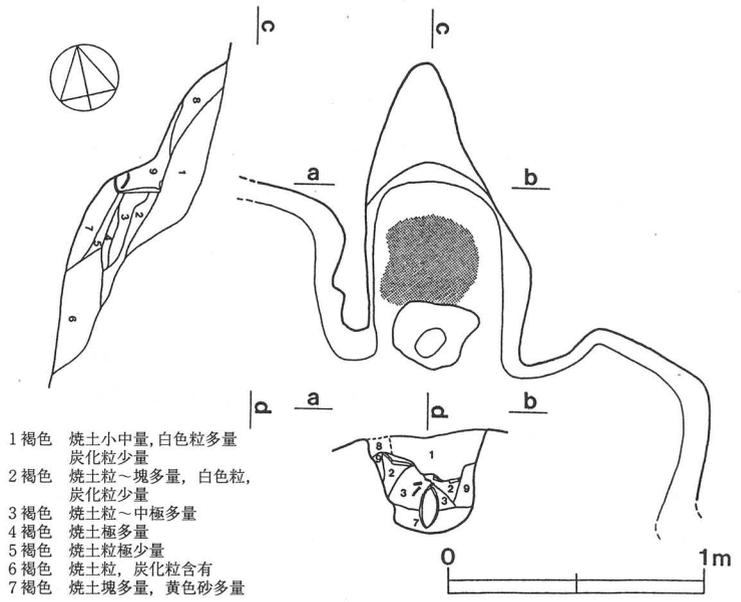


Fig 19 5号住居址カマド

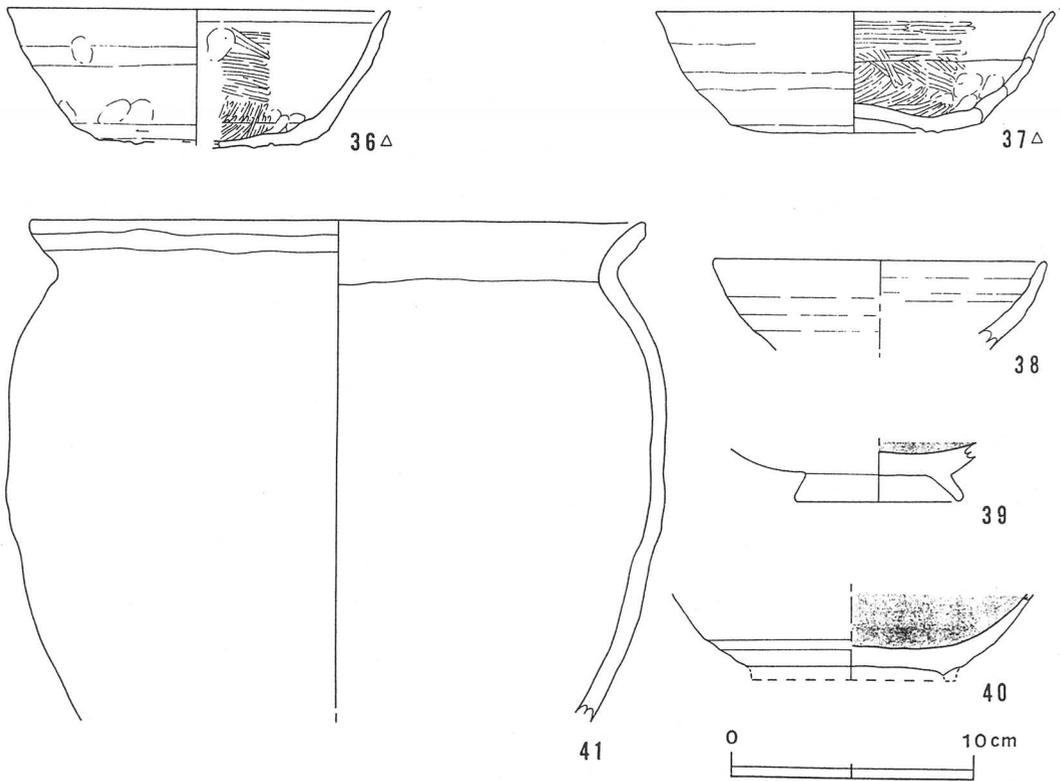


Fig 20 5号住居址出土遺物(1)

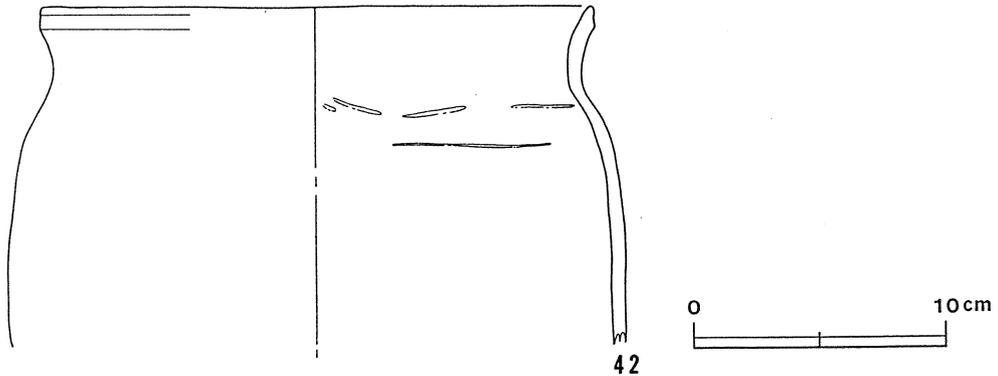


Fig 21 5号住居址出土遺物(2)

10号住居址

本住居址は調査区の西，B-2，3区を中心に確認され，5号住，8号住，12号住と重複している。平面形は方形を呈し，規模は4.6×4.2m，最深部0.4mを測る。主軸方位はN-50°-Wである。床面はわずかに南へ傾斜している。壁溝は北東壁において確認することができた。Pitは確認できなかった。

覆土は焼土粒，炭化粒，白色粒を含有する暗褐色土，褐色土である。

竈は北西壁から2ヶ所検出された。南側の竈は全長0.5m，焚口部幅0.55mで煙道部は約35°で立ち上がる。主軸方位はN-50°-Wである。覆土は焼土を多量に含む褐色土である。

北側の竈は全長1.0m，焚口部幅1.0mを測り，主軸方位はN-50°-Wである。覆土は焼土を多量に含む褐色，暗褐色土である。

共に袖部等における粘土の使用は認められない。検出状態から推測すると北側が新しいと思われる。

遺物は，土師器を中心に須恵器等多量に出土した。甕，杯，高台付杯が主で土師器が多い。この他，砥石，紡錘車，鉄器などが出土した。紡錘車（土製）は，径7.3cmで，「低」の文字が刻まれている。

本住居址の時期は平安期で，重複関係から，5号住，8号住より新しいと思われる。

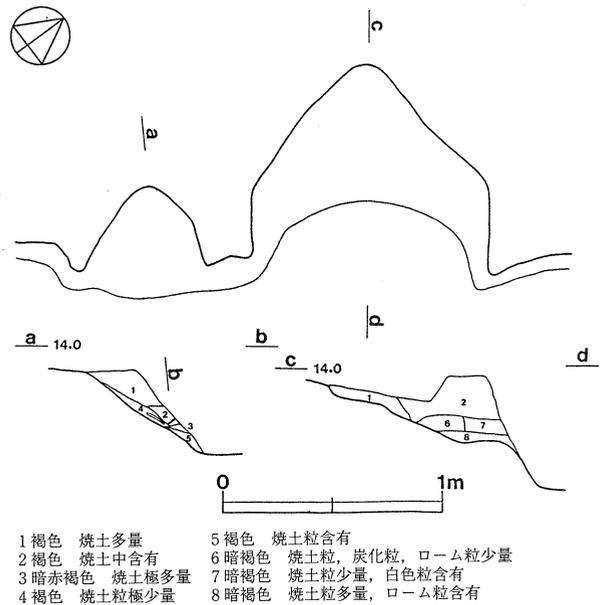


Fig 22 10号住居址カマド

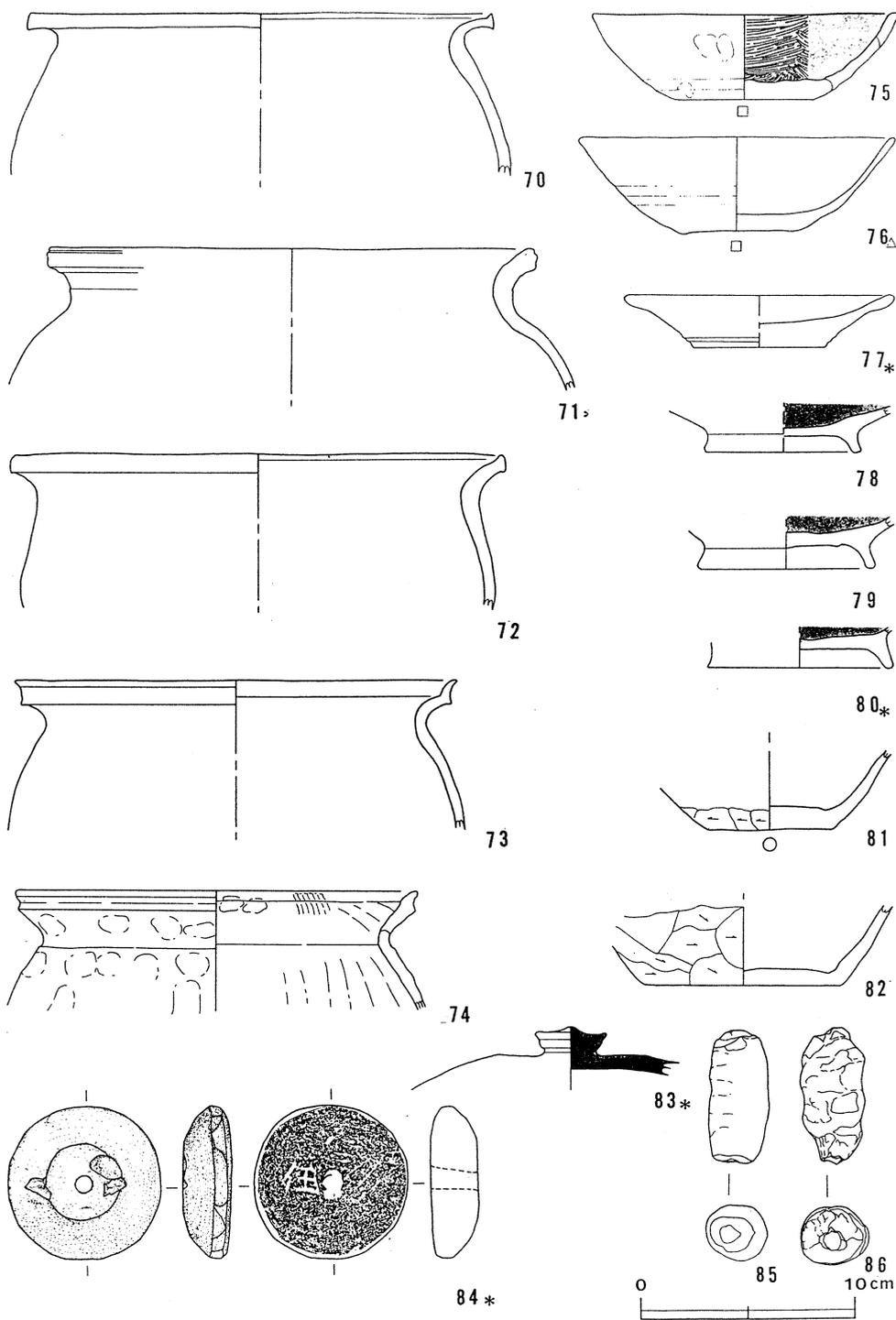


Fig 23 10号住居址出土遺物(1)

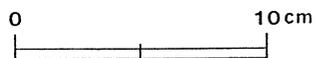
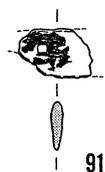
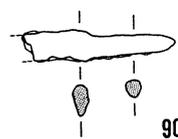
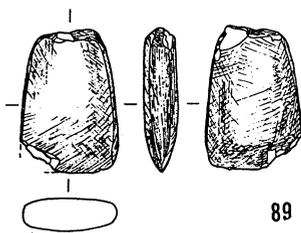
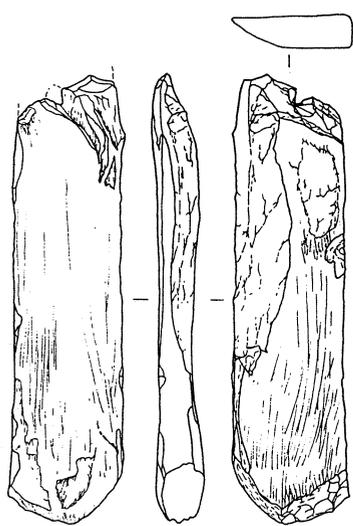
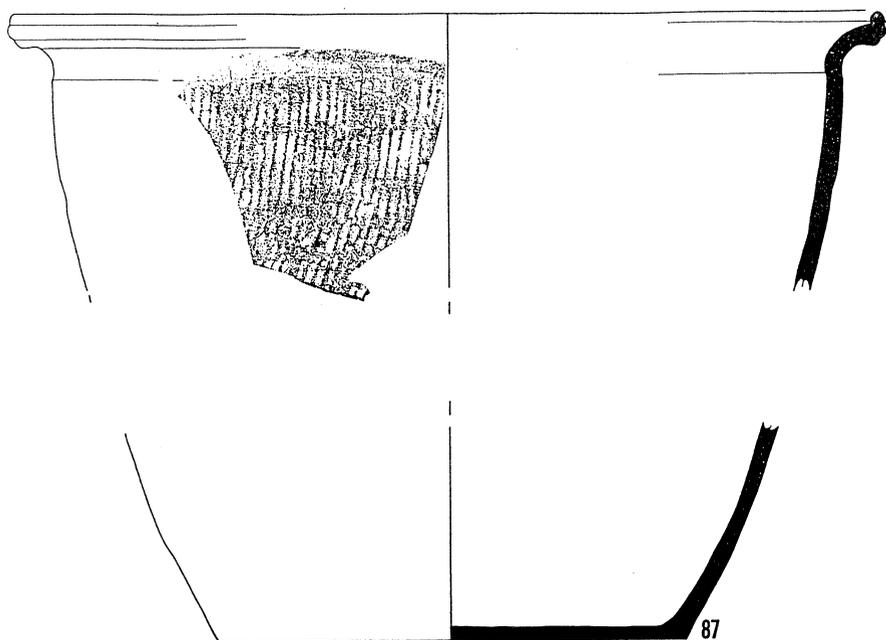


Fig 24 10号住居址出土遺物(2)

6号住居址

本住居址は、B-4, 5区, C-4, 5区で確認された。平面形は方形を呈し、主軸方位は、N-55-Wである。規模は2.7×2.9m、床面までの最深部0.4mを測る。P i tは1ヶ所検出された。覆土は、焼土粒や白色粒を含む暗褐色土である。

竈は北西壁のほぼ中央に位置し、規模は全長0.7m、焚口部幅0.7mである。

遺物は、須恵器杯、土師器杯、高台付杯が出土している。須恵器杯は竈中からの出土である。

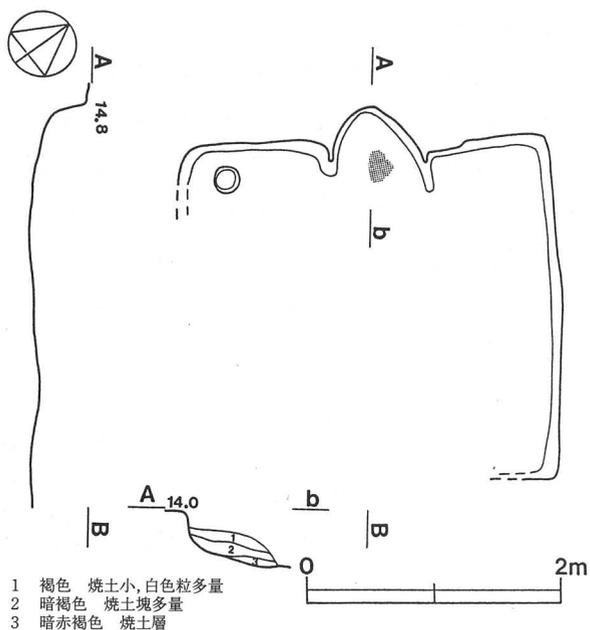


Fig 25 6号住居址

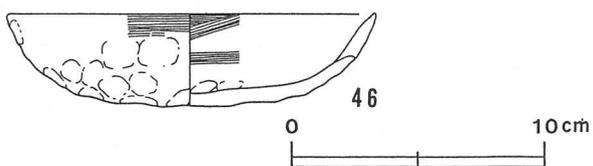
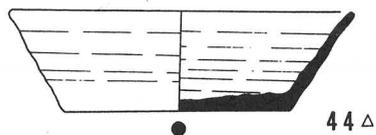
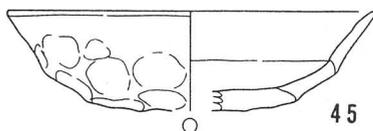
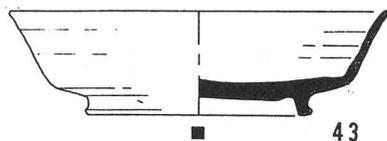


Fig 26 6号住居址出土遺物

8号住居址

本住居址は、調査区の南西端C-3, 4区, D-4区で確認され、4号住、8号住、10号住、12号住居址と重複している。平面形は長方形を呈し、規模は4.1×3.8mで、床面の最深部は0.75mを測る。主軸方位はN-40-Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦で、壁溝は、北西壁を除き、全周する。Pitは南東壁際で3ヶ所検出された。

覆土は、1cm前後のローム塊を多量に含む褐色土と、含有物が少なく、締りの強い褐色土である。竈は北西壁のほぼ中央で検出された。袖部や天井部は白色の砂質粘土で構築され、その粘土が

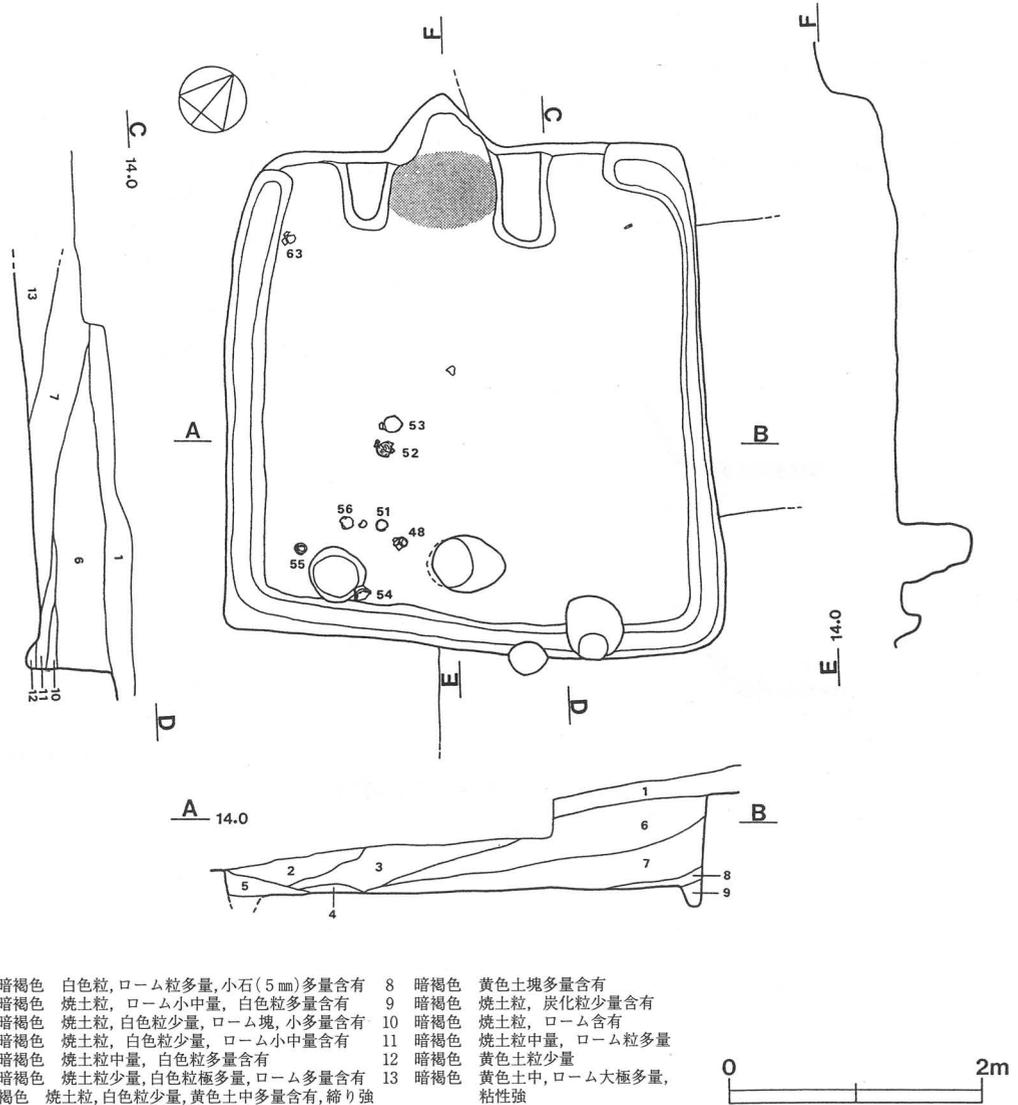


Fig 27 8号住居址

広範囲に住居内に流れている。規模は全長1.1m, 1.6m, 袖部の長さ最大0.75m, 幅0.4mを測る。煙道部は壁を0.4m掘り込んでいる。

遺物は、須恵器、土師器等多量に出土した。床面からは、杯、高台付杯、蓋、甕、甌、竈内からは甕が出土した。全体的に須恵器の出土が多い。他に砥石、高杯の脚が覆土中から出土している。

本住居址の時期は平安期で、新旧は4, 12号住→8号住→10号住と思われる。

- 1 褐色 焼土粒少量, 白色粒多量
- 2 褐色 白色粒中量, 黄色土中少量
- 3 褐色 焼土粒少量
- 4 褐色 焼土粒少量, 白色砂質粘土層
- 5 褐色 焼土粒少量, 白色砂質粘土層
- 6 にぶい赤褐色 白色砂質粘土含有, 焼土, 炭化物極多量
- 7 黒褐色 焼土粒, 炭化物極多量

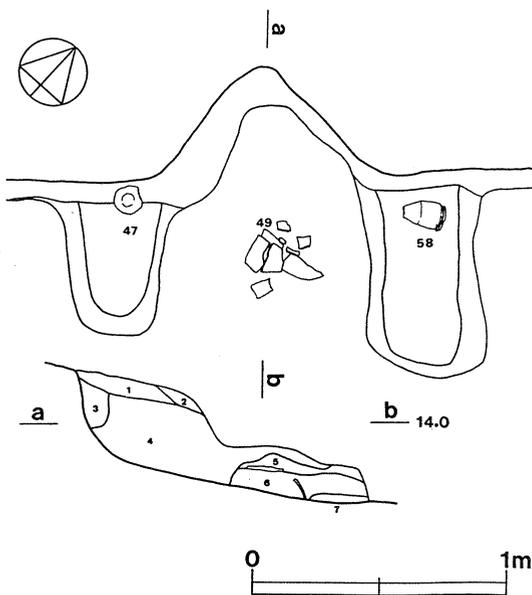


Fig 28 8号住居址カマド

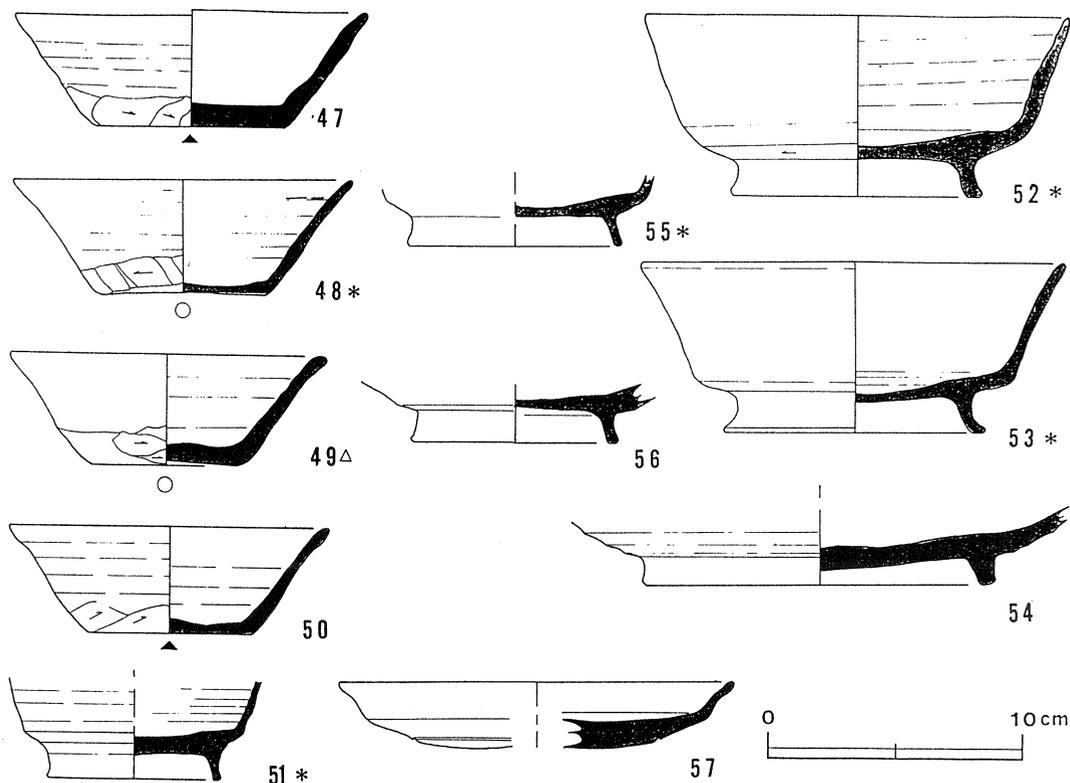


Fig 29 8号住居址出土遺物(1)

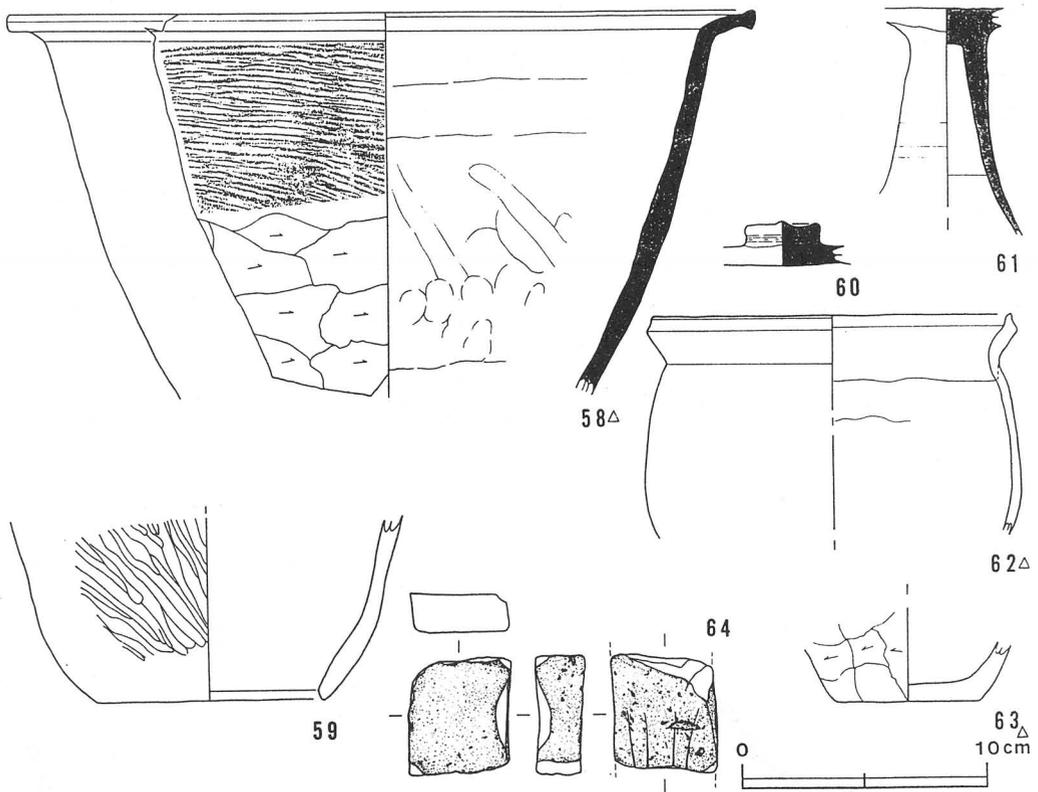


Fig 30 8号住居址出土遺物(2)

9号住居址

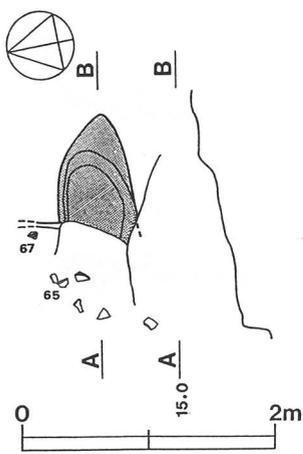


Fig 31 9号住居址

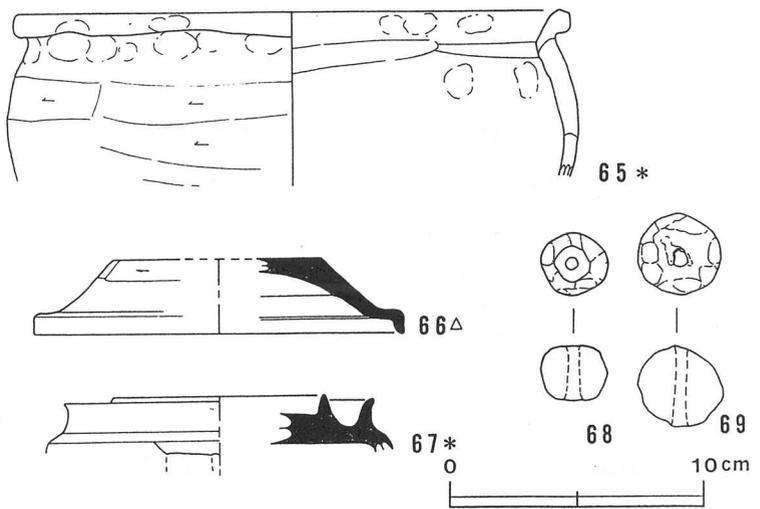


Fig 32 9号住居址出土遺物

9号住居址

本住居址は調査区の東，B-5区，C-5区で確認され1号住，14号住居址と重複している。

竈は東壁に位置し，焼土が厚く堆積している。規模は全長0.9m，幅0.6mである。

遺物は竈前の床面より，土師器の甕の口縁，円面硯の破片が出土している。

本住居址は平安時代で重複関係から，1号住，14号住より新しい時期と思われる。

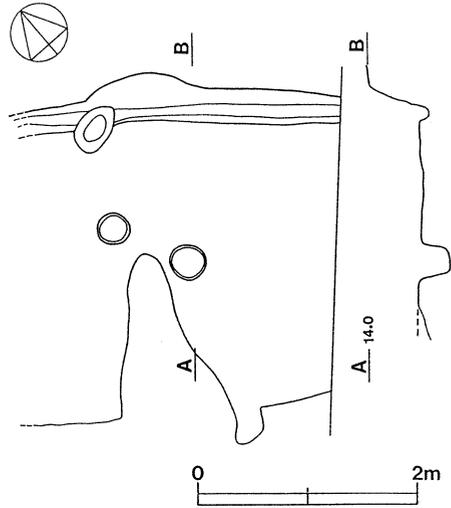


Fig 33 14号住居址

14号住居址

本住居址は調査区の東，C-5，6区で確認され，1号住，2号住，9号住と重複している。そのため，北西壁，南西壁はなく，また北東壁は調査区外となっている。床面はほぼ平坦で，壁溝が巡る。Pitは3ヶ所検出された。覆土は，1cm大のローム塊を多量に含有する褐色土である。竈は確認されなかったが，調査区外に存在すると思われる。

遺物は覆土中から，土師器，須恵器が多量に出土し

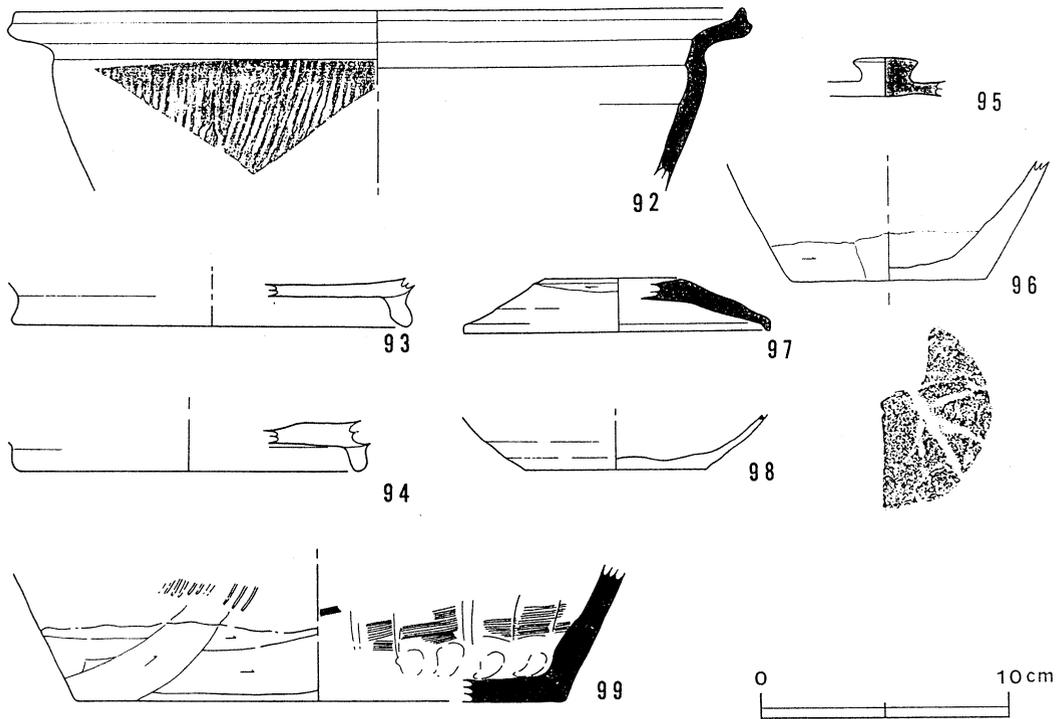


Fig 34 14号住居址出土遺物

た。

本住居址の時期は平安時代で、2号住、9号住より古いと思われる。

1号土坑、2号土坑

本土坑は調査区の北東、B-5、6区に位置する。1号土坑は、楕円形を呈し、2段に掘り込まれている。規模は1.7×1.4m、最深部1.4mを測る。遺物は、土師器、須恵器の杯や、瓦などが出土した。

2号土坑は、方形を呈し、一辺0.65m、深さ0.35mを測る。

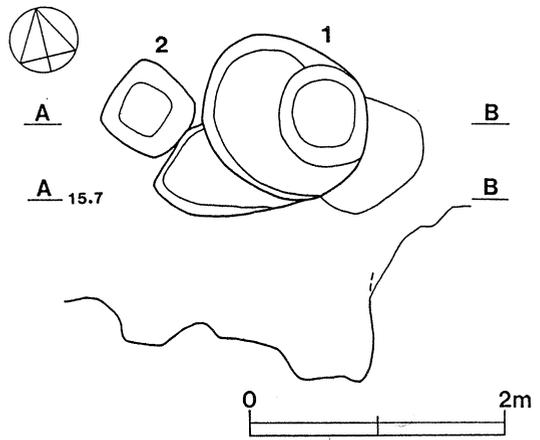


Fig 35 1号土坑・2号土坑

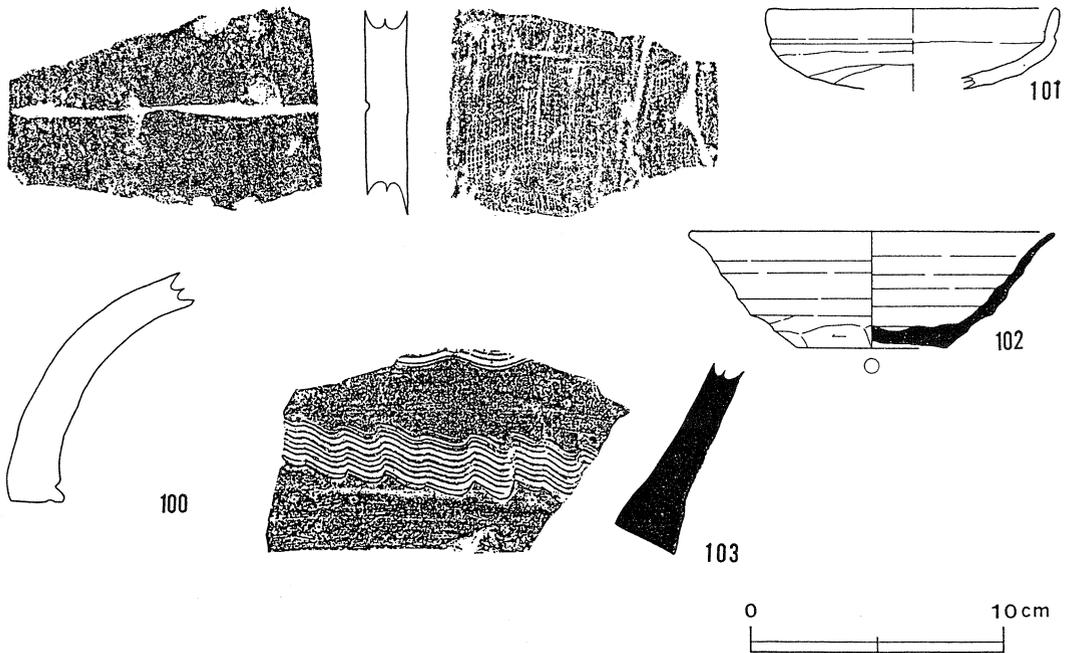


Fig 36 1号土坑・2号土坑出土遺物

第三節 遺構外出土遺物

八幡下遺跡からは多くの遺物が遺構外より出土している。遺構に伴う可能性が考えられる遺物もあるが、断定できない遺物は遺構外とした。遺物の多くは遺構確認作業で掘り下げたときに出土したものである。

104から107はA-4区出土である。当初は砂層を掘込んでいる住居址として調査したが、住居址の要素が見られないため自然の落ち込みと判断した。104は土師器の杯で墨書土器である。外面に二文字書かれており、上はにんべんに王の文字、下は摩滅しているため解読不能の文字である。内面は黒色処理されている。105は灰釉陶器の杯で、白に近い灰白色の素地に青緑と淡黄色の釉がかけられている。当遺跡からは小片であるが10数点出土している。

108から118はB-4区出土である。108, 109, 111, 112は土師器の杯で内面は黒色処理されている。

119から123はB-5区から出土した遺物である。

124から127はC-4区出土である。124は土師器の甑で、口縁は僅かに内湾する。胴部上半から口縁部にかけて輪積痕を残している。この輪積痕は異なる色調を呈し、橙色とにぶい橙色に分かれている。断面も二色に分かれており、この色調の違いは異なる胎土を使用して作られたと考えられる。

128から148は主に遺跡の東半分から出土した遺物で、正確な区は不明である。128は土師器の

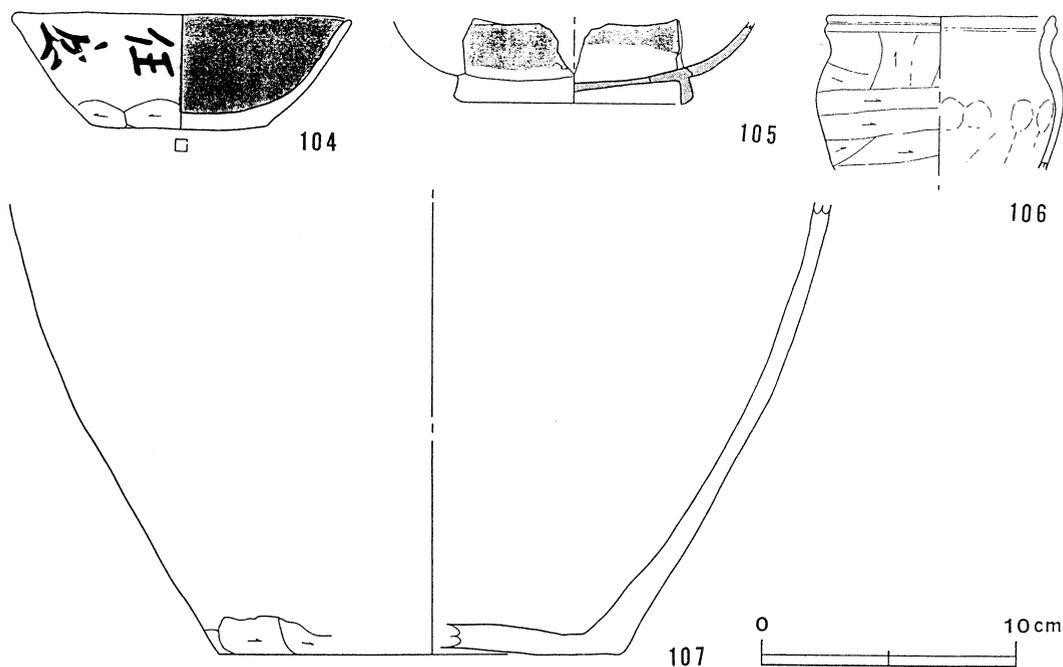


Fig 37 遺構外出土遺物(1)

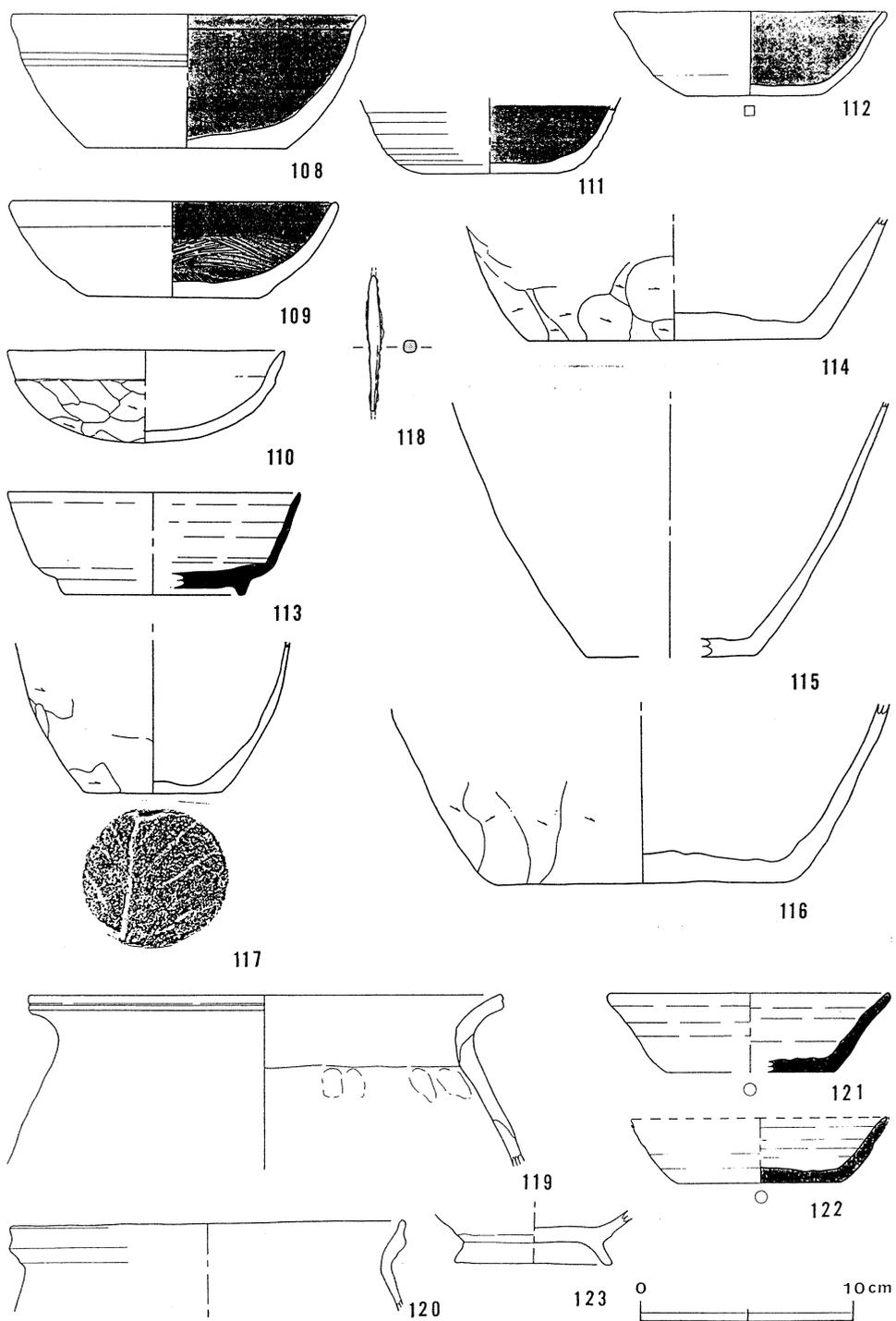


Fig 38 遺構外出土遺物(2)

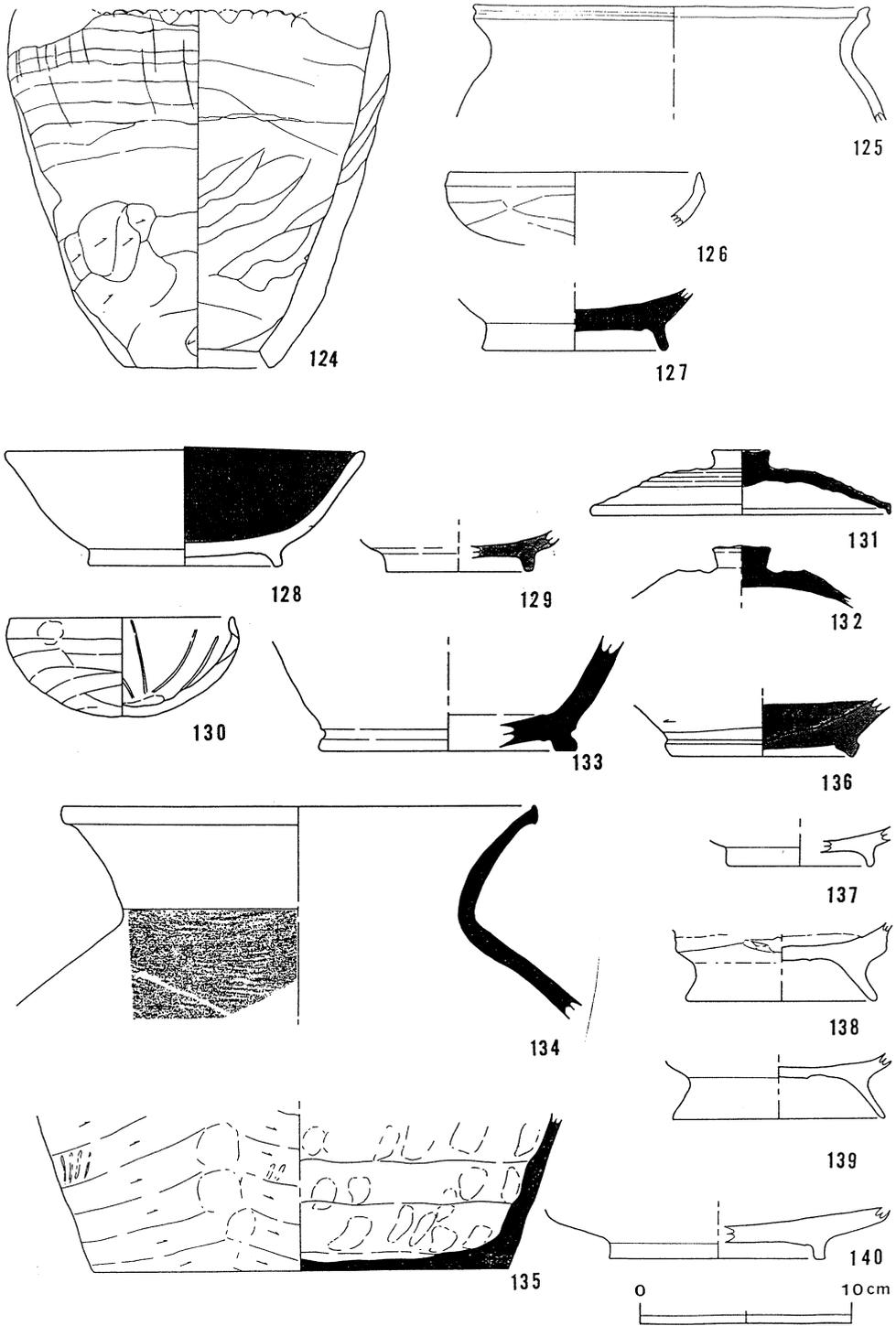


Fig 39 遺構外出土遺物(3)

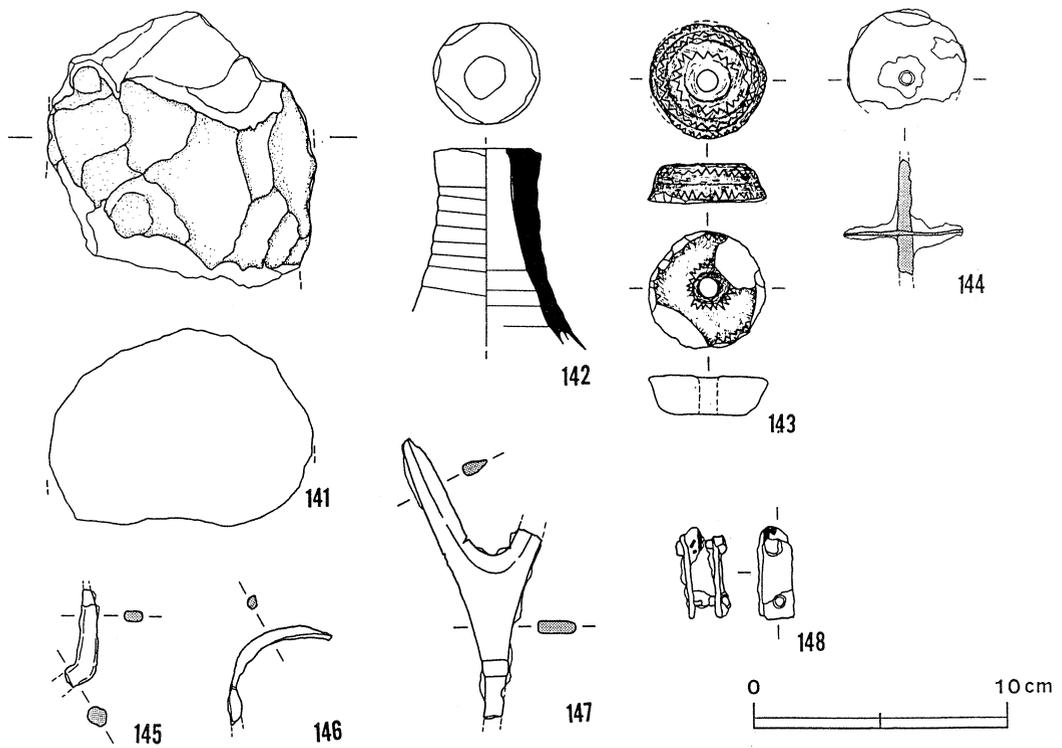


Fig 40 遺構外出土遺物(4)

高台付杯で内面は黒色処理がされている。さらに内面には漆が塗られていた痕跡が見られる。129は高台付皿で、良質の胎土を用い丁寧に仕上げている。外面はにぶい黄橙で内面は灰白色を呈し非常に滑らかである。

142は石製の紡錘車で全面に鋸歯文が刻まれている。143は鉄製の紡錘車で軸の大部分は欠損している。147は雁股式鉄鏃、148は帯金具と思われる鉄器である。

ま と め

八幡下遺跡は桜川流域の小河岸段丘上の緩斜面に位置する。土浦において確認されている遺跡の多くは台地上にあり、当遺跡のような条件に位置する遺跡の発見例は少ない。今回の調査で河岸段丘上の微高地に遺跡が確認されたことで、桜川や市の南を流れる花室川流域の当条件下において、遺跡が存在する可能性が充分考えられよう。当市では1980年から1983年にかけて分布調査が行われたが（注1）、微高地は未踏査の場所が多く、今後、新たに遺跡が発見されることが予想される。

今回の調査で検出された遺構は、古墳時代後期から平安時代にかけての住居址12軒、土坑3基である。これらの遺構や包含層からは土師器、須恵器を中心に多量の遺物が出土した。土師器、須恵器は杯、甕、甑、高台付杯が多く、この他土師器では椀、皿、須恵器では、鉢、蓋等が出土し、注目される遺物としては、円面硯（破片）がある。円面硯は9号住居址から出土し、陸部は中高で内堤によって海と陸を区別している。脚部は透しと線刻が施されている。県内において円面硯は25遺跡から35点の出土が報告されており（注2）、土浦市では烏山遺跡（注3）で出土している。平安期の土師器の杯や高台付杯は、内面が黒色処理されている土器が多い。その中には墨書土器や漆の塗られたものが各1点出土しており、墨書は「任口」と書かれている。この他、灰釉陶器の出土もみられる。

土器以外では紡錘車、石製品、鉄器、土錘、丸瓦等が出土した。紡錘車は4点出土し、土製が2点、石製、鉄製が各1点である。10号住出土の土製紡錘車は「低」の文字が刻まれている。紡錘車に文字の刻まれている例は烏山遺跡で見られ、滑石製紡錘車に「王」の文字が刻まれている。石製紡錘車は全面に鋸歯文が施されている。石製品は紡錘車以外に砥石2点、下げ砥石を加工した石製品、磨製石斧が1点、7号住からは球形の石製品が出土している。丸瓦は1号土坑からの出土である。

以上が遺跡の立地と出土遺物の概略である。当遺跡は桜川流域の古代を解明するうえで重要な遺跡であり、今回の調査の成果は、当立地条件下に存在する遺跡の調査例が少ないだけに、有効な資料になると思われる。

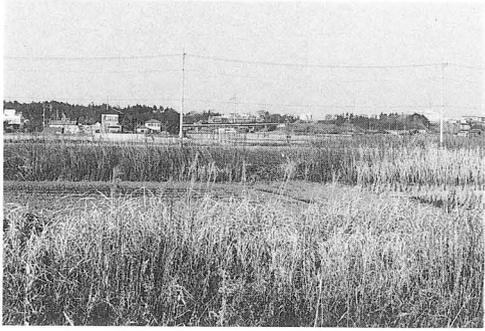
（注1）「土浦の遺跡」土浦市教育委員会 1984

（注2）「茨城町大峯遺跡」茨城町大峯遺跡発掘調査会 1990

（注3）「烏山遺跡」土浦市教育委員会 1988他 円面硯については「烏山遺跡発掘調査中間略報告」1972に出土の記載がある。

土 浦 市 遺 跡 調 査 会 組 織

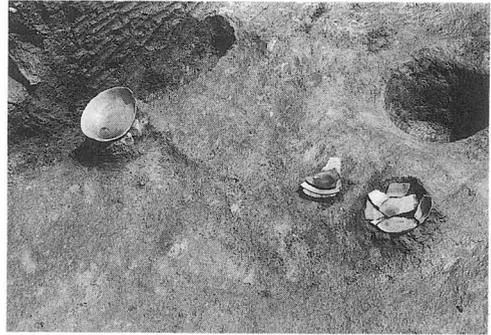
会 長	永 山 正	土浦市文化財保護審議会委員長	(～H 3. 3.31)
	須 田 直 之	〃	(H 3. 4. 1～)
副 会 長	日 下 部 晁	土浦市教育委員会教育長	(～H元.12.)
	青 木 利 次	〃	(H元.12.～)
理 事	茂 木 雅 博	土浦市文化財保護審議会委員	(～H 3. 3.31)
	大 塚 博	〃	(H 3. 4. 1～)
	中 山 清	土浦市建築指導課長	(～H 2. 3.31)
	雨 貝 宏	〃	(H 2. 4. 1～)
	神 林 栄 久	土浦市耕地課長	(～H 2. 3.31)
	横 田 紀 夫	〃	(H 2. 4. 1～)
監 事	田 中 昭	土浦市教育委員会教育次長	(～H 2. 3.31)
	藤 枝 正	〃	(～H 2. 9.30)
	二野屏 昌 男	〃	(H 2.10. 1～)
	滝ヶ崎 洋 之	土浦市企画課長	(～H 2. 3.31)
	廣 田 宣 治	〃	(H 2. 4. 1～)
幹 事	田 中 紀 夫	土浦市教育委員会社会教育課長	(～H 3. 3.31)
	福 田 統 太	〃	(H 3. 4. 1～)
	岩 沢 茂	土浦市教育委員会社会教育課課長補佐	(～H 3. 3.31)
	桜 井 正 広	土浦市教育委員会社会教育課文化係長	(～H 2. 3.31)
	加倉井 藤 雄	土浦市教育委員会社会教育課主査	(H 2. 4. 1～)
	石 山 淳 一	土浦市教育委員会社会教育課文化担当係長	
	石 川 功	土浦市教育委員会社会教育課主事	
	黒 澤 春 彦	〃	
	中 澤 達 也	〃	
	塩 谷 修	土浦市立博物館学芸員	
	関 口 満		



調査前 (東)



4号住



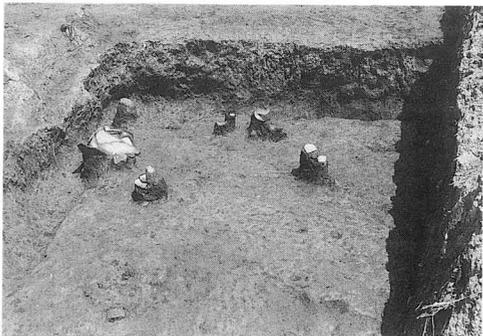
4号住



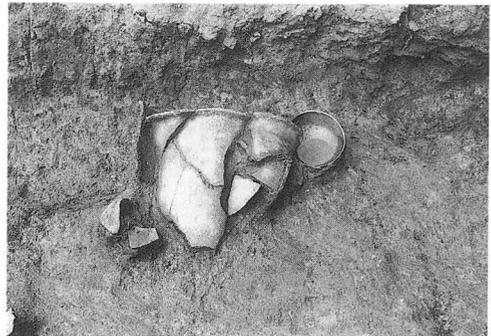
4号住



7号住



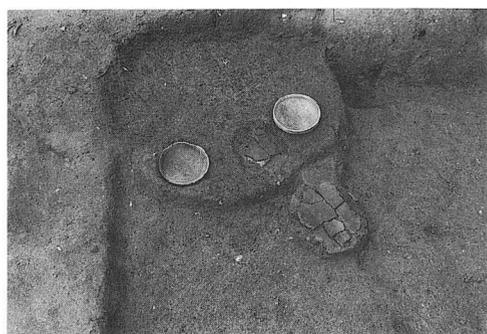
7号住



7号住



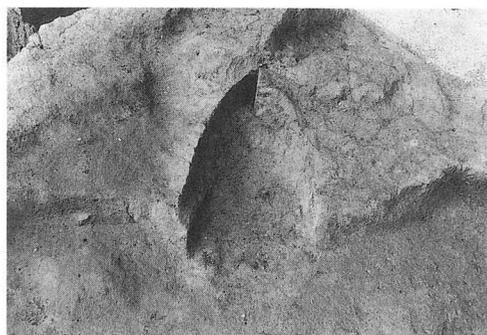
12号住



12号住



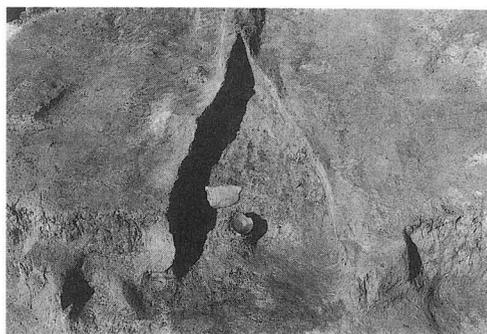
1号住



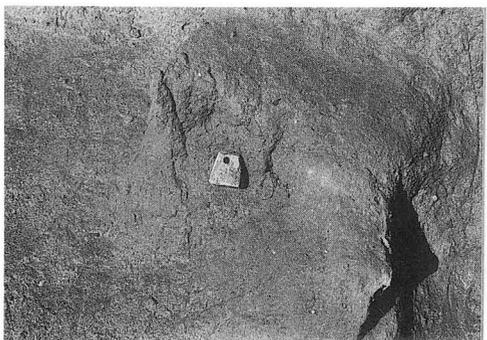
1号住



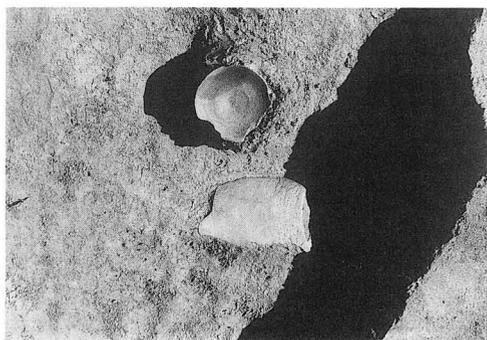
2号住



2号住



2号住



2号住



5号住



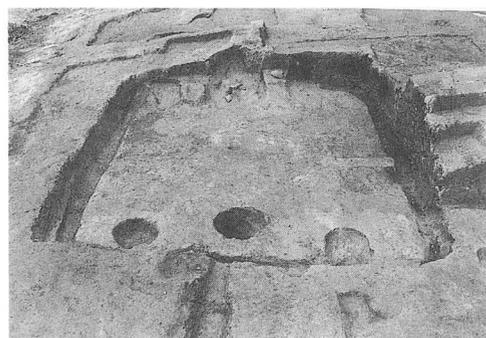
5号住



6号住



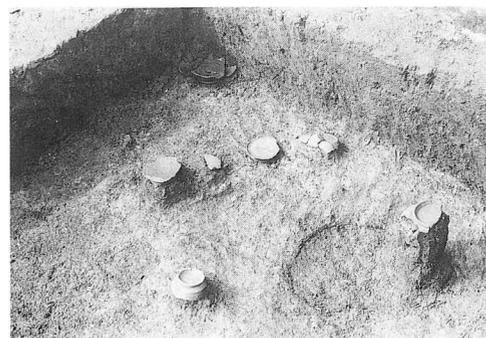
6号住



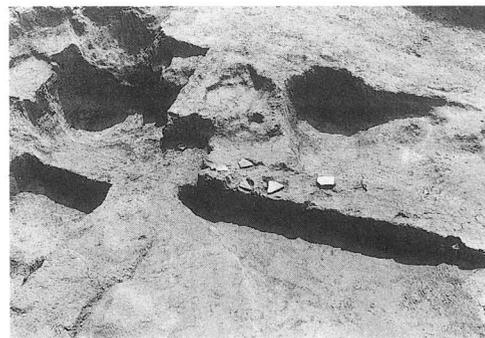
8号住



8号住



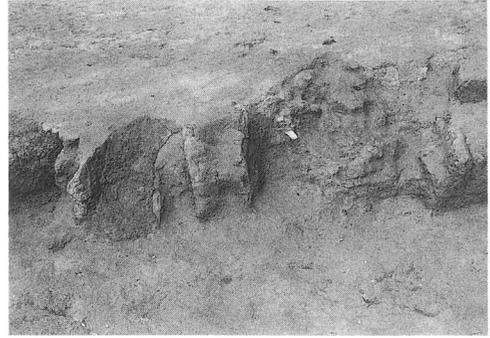
8号住



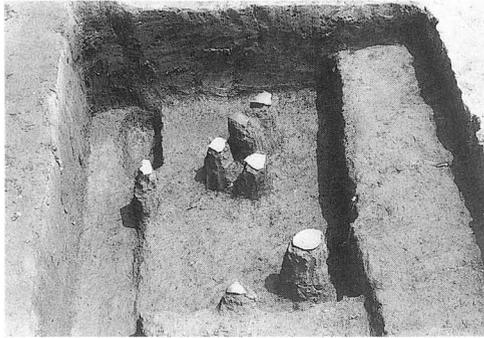
9号住



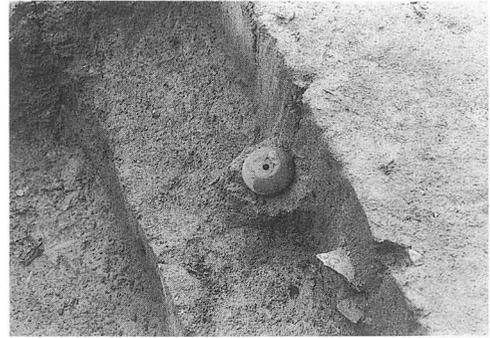
10号住



10号住



10号住



10号住



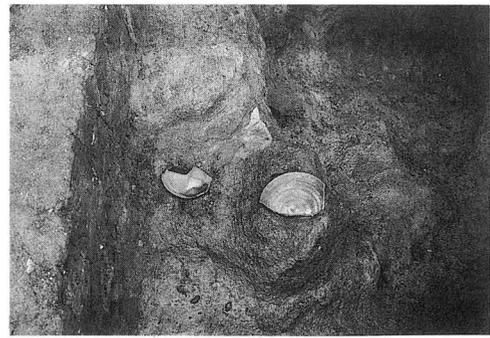
13号住・3号土坑



14号住



1・2号土坑



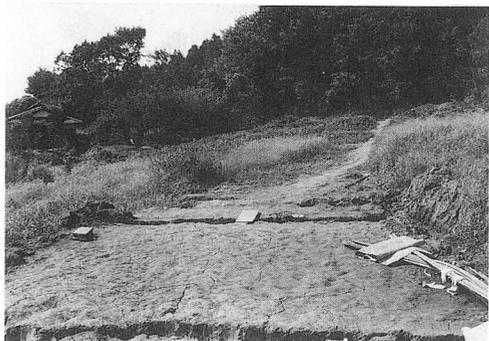
1号土坑



調査終了（南東）



調査終了（北東）



調査風景



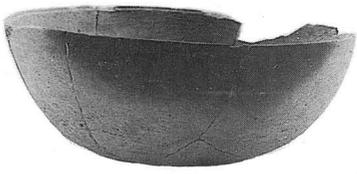
調査風景



遺構外出土状況



遺構外出土状況



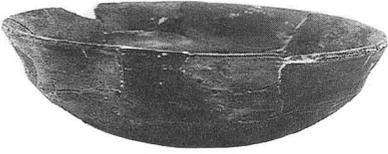
1



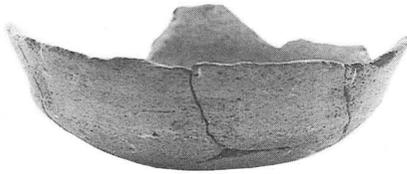
2



4



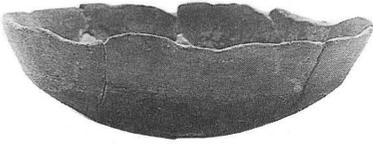
3



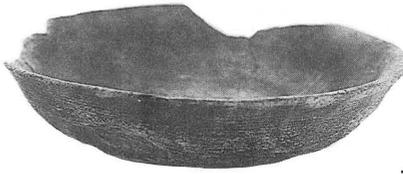
5



8



6



7



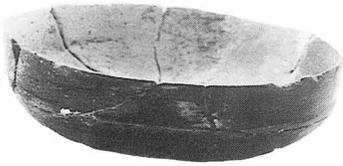
9



14



11



15



16



12



18



19



20



21



22



23



24



27



30



31



32



29



34



35



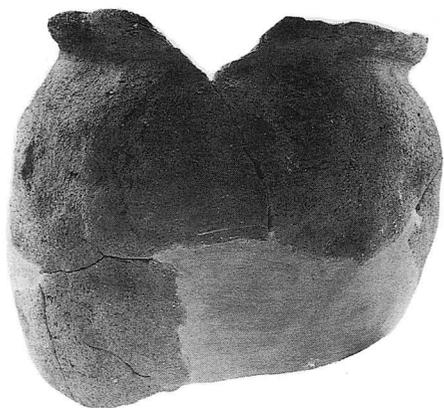
36



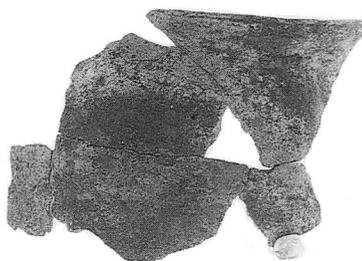
37



40



41



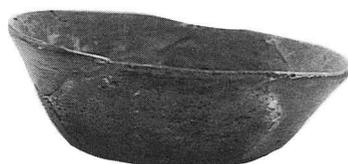
42



43



46



44



47



48



49



50



51



52



53



54



55



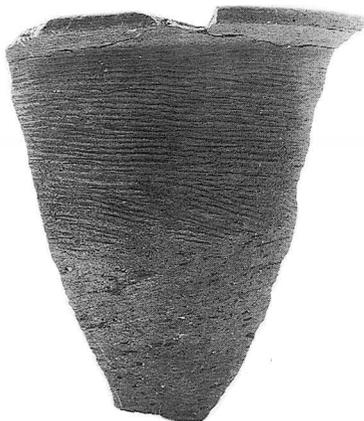
56



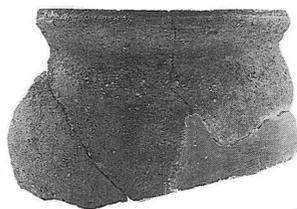
57



61



60



62



64



63



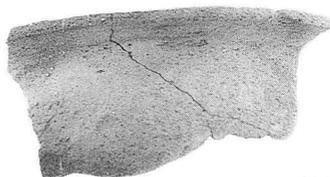
65



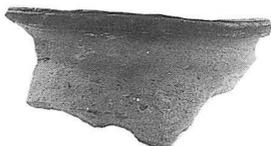
66



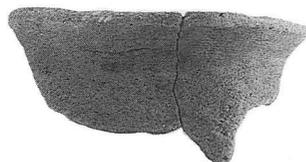
67



70



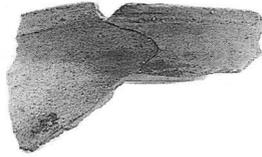
71



72



73



74



75



77



78



79



80



81



82



83



89



88



84





92



96



97



98



99



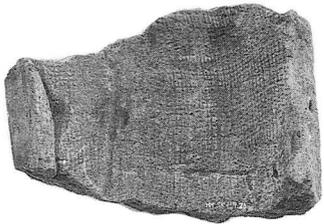
100



101



102



100



103



104



105

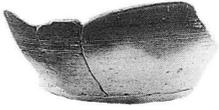


107



106





108



109



110



112



113



116



115



117



121



122



123



124



127



128



129



130



131



133



135



136



138



141



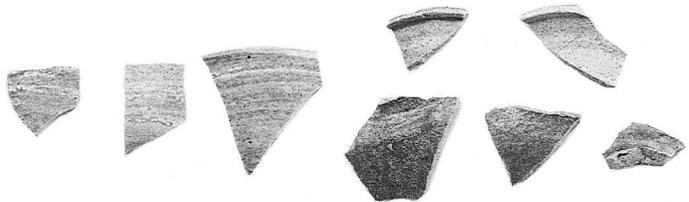
142



143



144



147



土 浦 市 八 幡 下 遺 跡
発 掘 調 査 報 告 書

発行日 1991年12月1日
編 集 土 浦 市 遺 跡 調 査 会
発 行 土 浦 市 教 育 委 員 会
〒300 茨城県土浦市下高津2-7-36
TEL 0298 (26) 1111
印 刷 株 式 会 社 い な も と 印 刷